Nov. 189
71 293

女學雜誌

第二百九十三號
明治二十四年十一月廿八日發兌

府下の書生監督　木村駿吉

配偶論　大澤榮三

第二期帝國議會

尊德翁　北村門太

中島、島田、片岡、末松、井上の各議員へ送る開書

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 293. NOVEMBER 21ST. 1891.

EDITORIAL:—The Time and its Occurrences.

CHILDREN'S COLUMN:—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

MISCELLANEOUS:—What we should Observe in Helping the Afflicted, Womanhood as a Study.

OPEN LETTER:—Letters Respectively to messrs. Nakajima, Kataoka, Shimada, Suematsu and Inoue. (Hogwaisei.)

LEADING ARTICLE:—Life Companionship or matrimony. (Osawa Eiji L. L.)

BIOGRAPHICAL:— (Kitamuru montaro.)

CRITICAL NOTES.

CURRENT NEWS.

NOTES AND NEWS:—

第二百九十三號目次

●社說　時事五則

●兒籃　小公子（若松しづ子）

●雜錄　窮民救濟の覺悟○女學志料

●開書　中島信行、片岡健吉、島田三郎、末松井上の二氏等に呈する書（方外生）

●論說　配偶論（大澤英二）

●史傳　二宮尊德先生（北村門太郎）

●女報

●記事　全國廢娼同盟會年會○震地傳道隊報告

●廢娼記事

○全國廢娼同盟會年會

去七八の兩日年會の爲に大演説會を開き、當廿三日其報告及懇談會を明治女學校講堂に於て開く。會員の推薦により、湯淺二郎氏會長席に、飯野吉三郎氏書記席に着す。會を代表して出席せる者、松井須八、石島長三郎（上毛青年會）、村松鉄二（山梨廢娼義會）、伊澤覺太郎（駿豆義會）、小野坦（伊豆國禁酒會）、小島官吾（東京廢娼會）、若松菊太郎（盤城平廢娼會）、並木覺太郎（信州佐久廢娼同盟員總代）、寺崎泰吉（廢娼壯年義會）、吉村大二郎（大和廢娼會）、佐々木笑止郎（神奈川青年會）、其他個人として、渡瀨寅二郎、根本正、津田仙、青木秀二郎、高田太郎の諸氏等四十名あり。

女學校生「廢娼之歌」を朗唱し、次に議事を開く。第一議案、震災地の寡婦孤女醜業者に勾引さるゝを防禦したる前後の議は、出案者飯野吉三郎辨明の后、種々熱心なる討論あり、最后特別委員十名を舉げ、京濱間に於て其運動に周旋し且つ各同盟會に於て夫々寡婦孤女授業の途を考ふべきとに決す、特別委員は、后刻、渡瀨寅二郎、佐々木笑止郎、根本正、湯淺はつ、潮田ちせ、津田仙、小島官吾、岩田三郎、飯野吉三郎、巖本善治の十名と定りぬ。第二議案は、同盟會機關雜誌續刊の議、巖本氏の出題は異議なく可決し、府下五團體より二名づゝ委員を舉て之に一切の事務を托すると並に各同盟會に於て雜誌二部宛購讀の義務を負ふとに定る。第三號議案、本年の議會に對し、公娼全廢、醜業者政權剝脫の兩建議を一齊に提出すると、各地に於て府縣會に對する運動、議員へ遊説、並に演説印刷物配布等の事を相應じて盡すべき件、巖本氏發題も亦直ちに可決し。第四號議案、廢娼に關する政府の法律の精神を速に實行せられたき旨内務大臣へ勸告するの件、青木秀二郎氏の發題も異議なく可決し、委員三名を舉て、島田三郎、湯淺二郎、巖本善治の三氏に定まる。

右畢りて、各地同盟會よりの來報、祝詞、及電報の披露あり、北越廢娼會、中國基督教青年會、岩國廢娼同盟會、松山青年義會、添原廢娼會、各古屋廢娼會、岐阜廢娼會、中和青年會、今渡廢娼會、宮城基督教徒青年會、神戸關西學院青年會等の書狀並に小野小野三、岡橋清四郎、松田順平、田沼義高、田中又二郎、山中笑、宮島爲雄、矢野部太郎、等諸氏の報告及び高田青年會、岐阜後樂學會等の祝詞は、他日廢娼雜誌に記載することあるべし。

右畢りて廢娼萬歲の歌を朗讀し、后ち別室にて茶菓を喫し、其后更に富士見軒に於て懇親會を開く、席上、津田仙、石島長三郎、佐々木笑止郎、小島官吾、飯野吉三郎、青木秀二郎、寺崎泰吉、野條愛助、並木覺太郎、巖本善治等諸氏の懇話あり、午后四時、歡を盡して。別る

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百九十三號　明治二十四年十一月廿八日發兌

社説

第二期帝國議會

○議會本年の形勢

去る歳の一會戰にて、敵味方の手心は既に知れ渡りたり。所謂る軟派と云へるものも、必らずしも官邊に奉公せんとしたるにあらざりしが、郷に歸りて民人の評判を聞けば、意外の誤聞流布して、壯士に迷惑したる場合もなきにあらず、斯て硬派の人々は、望外の好評を博し、元氣一層にして本年は今一段と思ひ込めるもあるべし。一歳早く過ぎ、正に第二期議會となりぬ。今后の形勢果して何如ん。

東京經濟雜誌は、先見投票の募集を催ふしたるに、第二帝國議會解散せらるゝや否やに關し、左の如き投票を得たり、

解散す　一二一
解散せず　二九二八

然るに、平素慷慨過激の調子を冷笑する經濟記者は、此結果に對して意外の評を與へたり。云く、議者或ひは謂ふ、國會解散は不祥の事實なりと、余輩決して之を信ぜざるなり、今や人心無事に倦み、唯々一珍事の社會に發せんことを是れ望む、恰も大氣の鬱結して一暴風の吹拂はんことを要するの事情あるが如し、余輩故に本年度の議會に於て異常の事變を見んことを望むこと殊に切なり」と。

生平着實を以て自任し、頗ぶる官民の調和に苦勞せる時事新報記者は、近頃ろ「議會の論勢」を察して、本年帝國議會の未來を預言し云へらく、官民朝野の感情相容れざるは年來の事にして、國會開設の擧の如きも或は其結果として見るも不可なき程の次第なれば、今日に至りて遽かに親睦を望むも到底得べからず、官民の關係既に然りとすれば、民間黨の爲に謀るには寧ろ大に反對に出でゝ政府に對するに如くはなし」と。此他、不用捨に論斷して、本年の議會は解散せらるべしと宣言せる若官吏もあり。早く之を嚇して政府の嚴然たる威光を吹聽し、大刀を抜く爲して士百姓を驚ろかさんとする吏權新聞紙も亦無きにあらず。

吾人は、今に於て解散非解散を預言するとの必要を感ぜず、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

斯る閑問題に囂々とし、實勢未到らざるに切りに勝負の掛引を講釋するものは、兎角現場に於て卑怯千萬なることを例證するもの也。

左れど、簾の動くによりて風あるを知り、鈴の鳴るによりて簷頭の音づれを察す。嘵々たる世論亦以て當今の民情を察するの便なきにあらざる也。蓋し思ふに本年の議會は、必らずや一大偉觀を呈せん。

○正理及實力

既に國會を開く、國會の意見にして、時あつて政府の意見と矛盾衝突することのあらんは勿論なり。茲に其事ありたりとせよ、之が爲めの成果抑そも何如ん。憲法解釋上の異論は之を樞密院に上告するの外なし、而して樞密院の解釋もし政府と同じからば何如ん。國會は樣々の法案を立て之を政府に建議することあらん、而して其建議政府に採納せられずんば何如ん。國會は、信任投票を斷行することあらん、而して政府を信任せずと議決し、之を報告したるとき、政府洒々然超々焉として控へ居らば何如ん。國會は政府從來の失策を摘發し、其欠典を曝露することあらん、而して其實證歷々、政府たとひ全く服せずと雖ども、不言不答の間默々其罪狀を謝するに至らば何如ん。此時に至れるが故に、民間黨直ちに執つて替はることを得べき乎否や。此般の實形は、坐上紙面の空論とは異なる。たとひ政府の失策を曝露したりとするも、其失策の大抵は既に世人が熟知する所ろのもの也。民間黨にして執つて之に代り、更に良好の政策を施こすことを得べき經綸を示すにあらずば、良民の信用を博するに足らず。何の政府か失策なからん、たゞ失策ありと云ふの故を以て、直ちに民黨を之に替ゆること能わず。

政府不信任の投票決すると共に、議會信任の輿論之に對して熾んならずば、院内の議決は偶たま以て三百員の意見を告白すと云ふに過ぎざるべし。信任投票を用ひて政府を動かさんとするの議會は、議會自己先づ輿論の信任を博取せずんばある可らず。

國會の建議政府に採納せられざるとき、議員諸公は果して何如なる勢力を以て之に迫らんとする乎。其勢力后りへに存ずることなくば、所云る政府に建議する所ろの議案は、一の伺に過ぎず、單に難聞屆の略答を受ることを何んぞ擇ばん。

憲法の解釋は、文の理に存せずして、輿論の勢に存ず、所云

る樞密院の議判未定まらざるに、既に實解を與ふるもの他に存せずばあらず。區々言論の上に文理を爭ふが如きものは、未だ憲法の眞性を辨ぜざるもの也。

窮到所詮、國會の活氣は、只だ其正理と實力とに關することを知る。其守る所ろ正しくば、遂に輿論の熱助を得べし、輿論之に附和して國會の力强大ならざるものはあらず。誰か去一歳に於ける國會の信用濃厚なりしと云はん、輿論既に國會に加擔せずば、國會の勢力は三百八の勢力なり。而も三百八、東西南北に分れて、小黨小派互ひに反目せり。夫れ五六十八の小團躰を以て、兵力あり、財力あり、經驗あり、才氣あり、地位ある今の內閣諸公に對す、敗れざるを得んや。

國會は先づ其實力を收めずんばある可らず、而して實力を收むるは輿論と合するに因り、輿論と合するは、國會の所見、所守、正々堂々たるに因る。あゝ國會場裏、威風凜々、正氣堂々たる偉男子なき乎。もし二十人あらば、救はるべし、もし十人あらば救はるべし。國會舞台上の一人は輿論の千万人を吸引するに足らん、あゝ何んぞ偉男子なき。

抑そも正義に伴はざるの輿論は假初の評判なり、一時の權畧を用ひて、平地に波を起し、巧みに世論を製造して、暫らくの間の輿論を得とも、其勢色は、秋天の紅葉の如し、忽まちにして、飛葉落々、水に流れて遠く失せんとす。

願わくは、本年の議會、正々堂々の偉男子起ち、正々堂々の公論現はれんことを。斯くて、成功にも失敗にも、正義の旗幟顯然として、其理由天下に明白ならんことを祈る。斯の如き失敗は、失敗にあらず、如此き解散は解散にあらず、眞正の輿論勃然として興り、風雷を捲きて猛然として返り來らん、此に至りて夫れ何ものをか恐れん。

苟くも斯の如くならずは、國家眞正の義士は、今の國會に同情を表することなく、其失敗を見るも、其解散を見るも、左して驚ろくことなけん。夫れ、曉々囂々たる浮薄輕動の壯士一流の言論を以て輿論と云ふことなかれ、如此き輿論は風に似たり、時に隨つて何處にも流れん。國家眞正實力の伏する所ろは、沈默、寡言、着實、温厚の士君子の胸中是れ也。

○信任の德義

人を擧て之に任ぜず、之に任して其技倆に委賴せず、之に委賴して而も崇拜の念なきは、立憲代議の政躰に慣れざる人民

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

の常弊なりとす。吾同胞に此の弊あらんとするを見て、痛歎に堪へず。

吾人は、議員撰擧の時に當りて、幾度か注意を促したり。黄金によりて撰擧せらるゝものは、又黄金によりて議院内の拘扼を受るものなり、賄賂を使ふものは、亦た賄賂に遣はるゝものなりと。然れども、既に撰擧了り、多數決によりて、邦民の代議士定まり、吾等之を頭上に戴きて國會に押出したらん后は、則はち之を信じ、之を助くることを要す。之れ代議政治の德義なり、立憲國民の責任なり。

尤とも奇怪なるは、硬派、民黨の新聞紙と云ふもの是也。彼等、民間黨に助援すと云ひ、而も輕評淺批を放つて代議士の名聲を毀ち、以て代議士の威力を墜し、國會の尊嚴を輕くするもの多し。彼等は、紙面に好笑の事項を掲げて、讀者が一顧半歡を買はんと欲す。其望や小、其志や憫れむべし。而して結果の實に驚ろくべきものあるを知らず。蓋し去一年に於いて國會の信用を墜落せしめたる最大の敵は、反つて民黨三四の新聞紙にありと云はずんばある可らず。

吾人は、第一期帝國議會の成効を賞賛し、其好結果の意外なりしことを祝するもの也。開闢以來最初の國會を開き、東西南北、異鄕異村の人を集め、六百の頭腦を初めて相會せしめ、而も彼が如く、靜肅、平和なりしは、實に驚ろくべきの現象あらずや。夫れ三人相寄るも尙ほ談話に姦しきことを覺ゆるを常とす。然るを況んや、鬱勃たる不平不滿の熱情を提げ來り、僅々九十日間に二十餘年の政鬱を一時に迸出せんとす、たとへば、洪流の一時に決し、大山の瞬刻に崩るゝが如くなるべし。而も其靜肅なると彼が如く、遂に六百五十萬圓の政費を減じて、綽々焉之を國庫中に遺し置くに至りたるは、何等の好結果ぞ。吾人は、第一回の經驗に徵し、敢て今の國會に失望せざるもの也。

たとひ失望すとも、民間士人は之を口外すべきにあらず、之を口外するは則はち恥辱なり。吾等は吾等が代議士を信任せざる可らず、吾等が代議士を助勢せざる可らず、何を以てか之を冷遇せん。況んや彼第一期の戰情甚はだ佳かりき、吾等は之を謝し、之を奬勵し、更に其第二戰の首途に贐せざる可らず。同胞今や立憲政体の民となれり、須らく亦立憲代議政民の心情を懷くべし。立憲國の民、立憲國の代議士に白す、希はくは、本年の議會に於て、正しかれ、淸かれ、强かれ。

兒籃

小公子

第十三回（甲）

若松しづ子

ドリンコート城で彼の宴會が有つて幾日も經ぬに英國中凡そ新聞紙を讀む人で、此お城に新らたに起つた小説めいた話しを知らぬ者は有ませんかつた。實に此一條を其まゝ巨細に話せば、隨分面白味のある小説になり升た。第一、フォントルロイ殿として英國へ迎へられた米國生れの小息子のヿが有り升たが、これは容色も人品も尋常でない様に評判されてゐて、はや人の望が一般是に歸して居り升た。第二に、儲嗣に付ては大自慢の老侯が有り。又第三には、カプテン、エロルと結婚した爲に受けた不興が未に解けぬ彼の若い美人の母のヿが有り升た。其上今は世にない先のフォントルロイ殿なるビーヴィス君の始めて現われた結婚のヿ、誰も見知らぬ其夫人が急に子供を連れて立あらわれ、我子こそ眞のフォントルロイ殿ぞと權理を主張するといふのですから、段々その事件をしやべりたて、書たて升て、世間では一方ならぬ騒動をして居り升た。さうかうする中に、ドリンコート城主が此度起つた事件と其成行に頗る不滿で、言立に對して法律上控訴されるに付ては、一大公事になるかも知れぬといふ風評が續て聞へ升た。

エールスボロの村のある郡中に曾つてこれ程の騒動の起つた例は有ませんかつた。市日などには、成行はどうであらふ、こうであらふの話をする人々が群をなして居り升た。百姓のかみさんたちは、聞いたと、思ふと、又人が思つてゐると推するとまでも互ひにしやべりくらべして、樂しまふが爲に態々茶呑みに朋友を招きだてする位でした。侯爵の憤怒の事、新たなるフォントルロイをそれと認まいの強情に付て、原告の母なる婦人に對しての憎惡なとに付ては、さま／＼珍奇しい噂話をいたし升た。併し話しの最も多いのは矢張り、彼の荒物やのおかみさんで、以前より又一層繁昌いたし升た。彼の婦人の言葉に、

イヤハヤ、飛んでもないヿになりさうですよ、そうしてそんなヿは大きな聲じや言へませんがネ、あんな可愛らしい人を意地わるく、子供まで取り上げてしまつた罰ですよ。デモ、おまへさん、其子が又可愛いくつて／＼、秘藏で／＼

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自慢で〱しよふがないもんだから、こんどのこつて、丸で、狂氣の樣ですと。それにネイ、おまへさん、こんどのは先の若樣のお袋さんとは大違ひで、お品も何もない女ですと。何んだか。シヤアックで、眼玉の黒い變なんですと。だもんですから、制服を着て務める位の身分の者が、あんなもんに遣われるのは外聞がわるいつてネ、それで、お邸へ這入るつていふのなら、おれは直と退くなんていつて升たよ。それに、こんどの子つていふのは先のと較べれば、月と鼈といわふか、マア迚も比較べ樣もない樣なんですと。そこで、おしまいにはどんなお騷動がおつぱじまるか、いつ方がつくこつたか分りませんよ。わたしつてパネ、チェーンが來て、其話しをする時なんか、肝が潰れて、さわつても倒れさうでしたよ。

城中でも上から下まで騷ぎでない處はない位でした。侯爵とハ氏とが協議して居られた書齋にも、タマスやパン燒や、他の僕婢たちが引も切らず噂をしては囁き合ふ僕婢の部屋にも、ウィルキンスが鬱憂極まる顏色で仕事をしてゐる厩にも同樣でした。ウィルキンスは例の茶色の小馬をとり別け、丁寧に世話をし、御者に向つて屢〱と、

おらわ、あんなに雜作もなく慣れッちまつて、あんなに威勢の好のに馬術、をせいたこたアねへんだ。あゝいふんなら後ろから供をしてつても、心持が好いや。

といひ升た。然し此大騷動の眞最中に、極く靜かにして、一向狼狽もせぬ人が有升た、其人といふは、最早フォントルロイ殿でもなんでもない樣に思われて來た、フォントルロイで、始めに事情を明細に說き聞かされた時は、少しく心配にも、又當惑の樣でも有りましたが、併しこれとても、出世の大望が外れた爲では決して有ませんかつた。

侯爵が彼の一條を話し聞かせるれてゐる間は、膝を抱へ乍ら低い台へ腰かけてゐ升たが、これは精神の這入たとを聞く時分いつもする僻で有つたのでした。其話の終る頃には平常にないまじめになり升た。そして

僕、なんだか變な心持がし升よ。なんだか………變です。

といひ升た。侯爵は沈默に子供を見て居られ升た。御自身のお心持も變でしたが、實際生涯にかふいふ變な心地がした例がない位でした。そして、いつも、さも嬉しげお可愛いゝ顏が

けふに限つて當惑さうなのを見て、尚さら變に感じられ升た
此時セドリツクは少し震へた樣な心配さうな聲で、
あの人たちがかあさんの家だの、アノ……馬車だの、とつてつてしまうでせうか?、
ナニ、そんなと、(と侯爵さまが聲高に)何もとつて行くことは出來んのだ、
セドリツクは先づ一と安心といふ調子で、
ア、さう? とつてけないんですか?
さういつて、お祖父樣のお顏を仰向いて見詰め、少し掛念する事がある樣子で大きな、眼を潤ませながら、言ひかけて尚こわ〳〵に、
アノあつちの子ネ、お祖父さま、アノ……子がこんどつから……お親父さまの……アノお祖父樣の子にならあくつちやならあいんでせう……アノ今まで僕見た樣に。
ナニ、そんなとがあらふ!
と仰つた侯爵のお聲が餘り武しく、大きかつたので、セドリツクは飛び上るほどビツクリし升た。
アンさうでもないの!(と不審さうに)さうあらないんですか、僕、さうかと思つたんですよ。
といつて、急に腰かけを離れ、
僕、侯爵にならなくつても、矢つ張り、お親父さまの子なんですか? 先の通りにお祖父さまの子?
といつた顏が紅で、そこに、返事を待つ一心が現われて居升た。
どふもこの時の老侯が、頭から足の先まで、セドリツクを御覽あさり樣といへば、實に非常でした。彼のフツサリした眉の寄せ塩梅といひ、其下の窪い眼の光り樣といひ、實に平常と違つて居り升た。
おれの子かなんて、おれの息のある中は貴樣はいつまでもおれの子だ。それに貴樣の樣におれの子だと思つたのは他に誰もない氣がするんだ。
と仰つた聲いろが非常に、震つた樣で、チギレ〳〵の樣で、枯燥た樣で、前よりも殊さら一層きつさうに物を仰つても、侯爵らしい處は有ませんかつた。
セドリツクの顏は頭髮の根まで赤くなりました。心の落着と嬉しさとで赤くなつたのでした。そこで兩方の腕を深かくポ

七

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ツケットの中へ突き込み、お祖父さまのお顔を、此度は一向恐氣なく見擧げて、

お祖父さま、ほんとうにそんな心持がするんですか?、ガヤ、僕、侯爵だの何んだのつて、そんなこと、どふでも好いですよ。僕、侯爵になんかならなくつても好いです。僕ネ、かふ思つたんです。アノ、侯爵になる子の方がお祖父さまの子にもなるのかと思つたんです。ネイ?、さうすれば、僕さうじやないんだナつて思つたんです。だから、僕、變だつたんです、ネイ?

侯爵はお手を其肩の上へ載せて、自分の方へズツト引きよせ、太い息をつきながら、

おれの力の及ぶ丈は、何も彼も抑へて、取らせはせん。おれはまだ信ぜん。あいつらが貴樣の物に手をつけることが出來やうとは信ぜん。どうしても、貴樣には此位が備わつてゐるのだ。それで矢つ張り、貴樣のになるかも知れん。ダガナ、何事が有らうと、おれの力にいきさへすれば、何もかも、貴樣に遣るぞ、一切遣るぞ。

かふ仰しやるお聲とお顔に非常な決心が現われてゐまして、丸で子供に物を言つて居られるとは思へない樣でした。我と我が心に誓約をされるかの樣に聞え升た。そして實際さうで有つたかも知れません。

今が今まで、どれ程までに、子供を寵愛し、どの位自慢で有つたか、御自分でも御承知がなかつかの樣で、其の屈強な處も、美質のある處も、容色の立派さも、これ程とはと、今さら詠められる樣でした。其頑固極まる性質にとつては、左程堅く心に諦めたことをやめるといふことは殆どおし難い、一躰左樣なことはない筈としか思へませんかつた。それ故、よし權理を人手に渡すにしても、充分遣合ふてからでなければと、斷然決心されたのでした。

ハ氏に面會した數日後に、フォントルロイ夫人と言ひ立た婦人がお城へと推參して、彼子供を引連れて居り升た。併し早速に追ひ返され升た。取繼に出た給事が侯爵さまは面會お斷りで、出入りの代言人に委細取斗らわせるで有らうと申傳へ升た、上からのお取繼をしたのは、彼ダマスで、あとで、僕婢の部屋で滔々と此婦人に付ての考へを陳述し升た。ダマスの言葉に

わしも華族方のお邸で制服勤めを長らくした、お蔭には、此婦人がどの位に品のある位が知れないでたまるもんか。それで、あの女が貴婦人だといふなら、わしの女を見る眼は腐つて居るッていふん。

といつて、一層自慢らしく、

憚りながら、あのロッヂに居る方は、ソリヤ、アメリカ生だらうが、さうでなからうが、あれこそ、本當の品のある方よ。、片眼しか開いてないだつて、その位はこちとらにゃア知れらア、それだから、あそこへ始めて行つた時、直ぐとヘンレにさういつたんだ。

文學

風流

樂翁公

風流たのむもの今の世いと多かれど、何れを眞のみやびとはいひも定めん。只、月を觀るとても何如ではいはん、歌よみからうた作るとて何如でいはん。今の風流といふは、先づ我名をてらひてんとおもふより、おかしと思はでも古しへ人の好みしものは物まねびして、それもて名得んとするもあるべし。歌よむとても、よその心よりよみいで、よその口まねびして人にてらひて譽得んことをのみ思へば、心にもあらぬことをよみなし、あるは奈良の都の舊事を集めてつくりなせど、よみなす心のうちは今の世の末が末なるふりを改めず、かくて古にかへせりと思ふことあるべし。又は、世に仕ふる道をもよそにして、人に高ぶるみやびもありなん。なかには謝氏とやらんの妓女携ふるとは、かの器といひ才といひ、世をも人をもおさめものして、千歳の后も名をあらはすいさほあれば、よし善からぬことのあるとも、よきにくらぶれば物のかずならず。さるに何のかゞはしさもあらで、只色にふけり、酒にのまれてかいずりわりき、わがすべき事をもせず、之を世のみやびなりと思ふたぐひは言ふにも足らじ。たゞやんごとなき人は花を觀、月を觀るとても、いかで心のまゝにすべき、われ一人おもしろきとて夜ふくるまで月花の宴にふけらば、大炊どののあたりはさらなり、從者なんどをはじめとして眠るともえせじ。君はおそく寢ねばおそくも起出なん、末つかたのものは猶早く起いでぬべしとおもひやりて、名殘おしとも打す

てゝねやに入るこそ其程得しみやびとはいふべけれ。ことに月花の宴とても、それをばよそになして、たわれたる事にのみ夜をあかすなんどは言ふにも及ばずなん。いでや武夫ならばかの槊横たへてからうたよみ、弓矢さげて歌よみしなんどは只のみやびなるべし。皆なわがすべきことをもせず、わが樣をも知らで、いやしきものは高きまねびし、高きものははかなき住居なんどのまねびし、からうた作るものは唐くにの物商ふ賤にてもあれ、高麗くだらの人もから國にちかしとてや、そのかいたるものあどたうたぶなどたぐひもあり。歌よむものは雲の上人ならば、いつも名たゝる人のやうにおぼえて、拙なき歌をもうつしものして弄そぶもあるべし。又は古きもの集めむとて今の用あるものにかへても用あきものをも求むるもありぬべし。みやびは花のかほりなり、花と實とありて足りなん、左れどこのかほりありてこそ梅は桃にまさりぬれ。

閑書

○中島信行君に呈す

方外生

持重愼密足下の如きは多く得難し、名利權勢の外に超脫する(今の政治家に於て)足下の如きは多く得難し、名分を大義に確守する足下の如きは多く得難し、眞個に立憲自由を重んずる足下の如きは亦多く得難し。去歲に於ける足下が行爲は、豈に大ひに顧慮する所ろありてにあらざらんや。最始の國會解散せられざりしに至りては些さか以て海外に誇るに足らん。左れど、本年に於ける足下が行爲は必らずや去歲に異なるものあらんとす。三百議員を警醒し、活氣を滿塲に保養するは一に議長が死活の運手にあり。夫れ、江戸子を率ひて籠城せしむるは素より難し、然れども既に戰に臨む安くんぞ之をしていよ〱逡巡せしむ可んや。余は本年に於て世上近眼の徒が刮目して足下の眞面目を觀測し得あんとを望むもの也。

○片岡健吉君に呈す

軟、硬の文字、安んぞ士の鐵腸を評價するに堪へん、敢て兵を引く必らずしも怯なるにあらざる也。慷慨にして義に勇み、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

大度にして道に固き、足下の如きは實に得がたきものとす。世間曉々の徒、呼んで軟と云ひ硬と云ふも、足下に於て何かあらん。然れども、足下亦た其友を擇ばずんばある可らず。任俠にして身を與ふること必らずしも士の高義にはあらざる也。余は、本年に於て、君が大忠勇の煥乎として顯れんとを冀ふもの也。

○島田三郎君に呈す

第一回の亂雜せる議會に於ては、足下は實に全院委員長たるべし。足下尤とも巧妙に其任を畢えたり。本年に於ては余は足下が豫算委員に重きを置かんとを祈る。敏捷にして實才ある、方直にして公平なる、足下は實に其全技倆を邦家の爲に擧げ盡さずんばある可らず。余は只足下が無病を祈る。

○末松井上の二君に呈す

誰か公等の技倆を信ぜざるものあらん、たとへば水の窪るが如し、誰か公等が才の到り至らざる所なきとを疑はん。世人公等に官臭ありと云ふは其鼻の未だ賢ならざる也。公等何んぞ官臭あらん、亦是れ他に一種の理想あるなり。但だ冀はくは其行爲の明白にして、其運動の表立たんとを。

雜録

窮民救濟の覺悟

彼の香ひ高き膏は賣りて貧しき人に施こすとを得んと。凡そかゝる淺々しき心にて人を救ふとを得ず、窮民救濟には一の大覺悟を要するなり。今ま報德記により、二宮尊德先生が救濟法の一例を擧げ示すは、聊さか以て今の世人に益せんとてなり。

天保七年の大凶荒に當り駿豆相の小田原領も亦大に饑う領民飢渴を免れ難く山野に出で草根を掘り木實を拾ふ君侯大に之を憂勞し救荒の道を求るといへども數万の饑渴を救ふと能はず是に於て家臣某を野州に下して先生二宮報德を召す先生曰臣此地に至れるより以來万苦を盡し再復安民の事を勤む何ぞや君の委任辭し難きが故なり今凶饑の時に當り此民を救はんとして寸隙を得ず然に臣を召玉ふ事何ぞや初め此地の興復を任じ玉ふの時に當り功を奏せざる中に召さす徃ざるの約をなせり然るに今飢民を棄て江都に至らしむるもの君過てりと謂ふべし我命に應ぜず若尋問の事あらば君自ら來り玉ふべし何

ぞ臣を呼ぶことあらんや子歸府して此旨を言上せよ某怫然とし
て怒て曰臣として君命に隨さるは不敬あり某君命をうけて使
す此の如き無禮の言を以て何ぞ君に復命することを得ん速に命
に從ひ江都に至るべしといふ先生憤然として曰く我進退周旋
一として君命を重ぜざるはなし今命を奉ぜざるものは其初め
約する所の君命を廢せざらんとするのみ豈使者の知る所なら
ん凡そ君の使者たるもの君命を傳へ其對ふる所を以て復命す
るのみ何ぞ他あらんや只我が言を君に告んのみ何を憚て留滯
するやもし罪あらば我にあらむ子の與かるところにあらず速
に復命せよと某大に怒り歸府して君に告ぐるに此言を以てし
且先生を無道なりと訴ふ君侯憮然として曰事の仔細を告ずし
て徒に二宮を呼ぶ故に對に此言を以てす宜なる哉其隨はざる
や嗚呼我國民の飢渇を憂ふること切にして其辭を盡くさず過て
りといふべし二宮の言直にして當然の理なり汝再び野州に至
り加賀守大に過ちたりと二宮に傳へよ且小田原領民既に饑渇
に瀕せり願くは彼の地に至りて飢を救ひ我心勞を安んじ國家
の大患を除かんことを賴むなりと宣ふ某大に驚き前言を悔ひ再
櫻町にいたりて君命をのべたり先生答て曰く然り君意此の如
くならば臣豈命を奉ぜざらんや然ども今此地の民を撫育する
に遑あらず此地の民は十年以前に命をうくるところなり今の
命令を先んじ小田原の領民を撫育する此地の民に先ずる事は
爲し難し此地の撫恤終りなば命に隨て彼の地に赴かん子此旨
を以て言上せよといふ某又歸府して復命せり君公之をきゝ悅
び玉ふ是に於て大夫以下に令して曰二宮既に野州の廢亡を與
し比類なき丹誠をつくし三邑の民を安んず其事業衆人の知る
ところあり今又小田原數万の飢民撫恤のことを任ぜんとす彼固
よ　一家を廢し一身を抛ち我が出財をやめ獨立一身の丹誠を
もて此事をなせり初めより國士のために力を盡くし主恩とい
へども之を受けず非常の英傑にあらずんば何をもて此功業を
とげんや假令恩賞を與ふといへども亦隨ふべからず然ども二
宮は二宮の道あり我は我が道あり何ぞ有功の臣を賞せざるべ
けんやもし彼の意此の如しとして賞の道を缺くときは豈人君
の職といはんや汝等之を賞するの道を議すべし我も亦思慮す
べしと宣ふ群臣これを議すといへども決せず君公こゝに於て
祿若干用人格を以て賞すべしと命ず先生野州三邑の民をして
充分に飢渇を免れしむ其惠み老若男女共に粟五苞を以て食に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

當つ平素豐饒のときよりも優なり是に於て歳の十二月野州を出江都に着せり時に君侯病發上下甚之を憂ふ侯先生の來を聞き大に悦び玉ひ先づ速に之を賞せよと命ず恩祿を下し玉の前日に當り先づ人をして麻上下を賜ふ先生勃然として臣の不用のものあり何ぞ之を受けんや子夫れ之を返上せよ某怒て曰く是何の言ぞや君自ら服し玉ふところのものを玉ふ然るに臣としてこれを受けず我をして返上せよと臣下の道いづれのところにかある先生聲を勵まして曰く臣の道をしらざるにあらず君の道を知り玉はざるなりいま數萬の國民無罪にして飢亡に臨めり君自ら之を救ふとあたはず遙に臣を呼びて之を救はしめんとす我思へらく君臣の來るを待ちて民を救ふの道をとひ下すに米粟を以てせんと豈圖んや臣之を受けず寸斷にして飢民に與へんか豈飢民此物を食ひて命を全くするとを得んや且臣をして之を服せしめんとするか飢亡に瀕せる民を救はんに晝夜を分たず奔走し頃刻も救助の道の後れん事を恐る何ぞ此上下を服して飢渴の民を救ふとを得んや是故に不用のものなりといふ無益の賜ものを受んと思ひもよらす速に返上せよと某益々怒り此言を以て君に述ぶ嗚呼賢なる哉二宮其言古今の金言なり我甚過てり其物を與るとなかれと是に於て先生を役所に呼ぶ先生出ずして曰く我に何の用かある只速に小田原に往かんとするのみ然るに今我をして役所に招くもの我を賞するに祿位を以てするにあらざるか我今數萬の飢民を撫育せんとし民の飢渴を憂ふるのみなりしかるに飢渴死亡旦夕に迫れる民を措き祿位の賞を受るに忍んや是を以て命なりといへども我は往ざるなりもし祿を與へんとならば夫我に千石を與ふべししかれども豈又千石を與ふる事を得んや詮なき事ありといふ或人其言に驚きとふて曰く子位祿に望なし又受るに忍びずと然して千石を與よと千石何にかするや先生曰位祿はわれもとより受けざるところなり若千石を與へば直ちに飢民に與へ其命を救んのみ豈他あらんやと或人此言を以て大夫以下につぐ大夫以下驚嘆して曰く二宮の言此の如し兼て評議の祿位を命せば彼必受ず豈受ざるのみならんや又如何なる言か發せん止んには如かざるなりと此言を君に言上す侯曰く二宮の言至れりといふべし先位祿の命は下すとなかれ我後日大に賞するの道あるべし今我が手元金千兩二宮に與へ撫育の事を任ぜん領民救助の米粟は小田原にて藏を開かん外に財をも與ふべしと命じ玉ふ家臣某此命を先生に傳へ千金を賜ふ君

自ら命じ玉ふ事なれども侯の病腦甚し是故に某を以て之を達せりと先生謹んで命を拜し任命を蒙り一度小田原に至れば民命無事に救助せん君必憂勞し玉ふとおかれといひて即刻江都を發し晝夜兼行相州小田原に入る人々其至誠を感歎す。

小田原領は駿州豆州相州三ヶ國に跨り西北は高山岐々として北に又曾我山あり東は大海にして山海の利其自在を得たり中古關八州の大守北條氏此處に居城を搆たる事も亦宜ならずや土地豐饒にして國俗奢侈に流れ大に困窮に迫れり是其便利に隨い節儉の道を失ふが故にあらずや時に天保七丙申年憂冷氣霖雨暴民並び至り五穀實らず既に大饑に及へり民百計を盡し飢亡を免れんとすれども活計すでに盡き露命旦夕に迫るもの幾万人國の大夫以下心を苦しめ慮りを盡くすといへども空論虛談のみに日を送り曾て救荒の道其至當を得る者なし諸士手に汗を握り空しく大息せり然に江都に於て君病に臥し日々重らせ玉ふと數度の注進あり一藩の悲歎手足措く所なきが如し時に歲の十二月先生忽然として小田原に至り君命をうけ飢民を撫育せんがために來れりと命令の趣旨を達して曰今年大凶に當れり君病床に在して大に國民の飢混に及び罪なくして死亡に至らんことを歎き我をして救荒の道を充分に行ふべしと命じ玉へり我野州三邑の民を撫育し彼地の用財を持ち來れりといへども何ぞ其一端を補ふに足らん君江都に於て手元金千兩を某に玉ひ米粟は小田原に於て藏をひらき救荒の用に當てんと命じ玉ふ速に倉廩をひらき飢民に之を賑貸して其飢渴を救はんといふ大夫以下一度は喜び一度は所置いかんと疑惑し互に議して曰今領中の飢民幾万かある廩粟何を以て周く賑貸するに足らん且君此事を二宮に命じ玉ふといへども未だ某等倉廩を私にはひらきがたし後日令を待す二宮の一言を以て君の藏を開たるの咎あらば何を以て其罪を免れんや此旨を以て江都に伺い命令あらば開くべし何ぞ二宮の一言を以てせんやと衆議更に決せず先生顏色を正し聲を勵して曰今幾万の飢民露命旦夕に迫れり其困苦悲歎幾許なるや君自ら病苦を忘れ日夜飢民の痛苦をのみ憂ひ臣に命ずるの間も救助の後れん事を嘆き玉ふ然るに各位の職國民を安ずるを以て任とし上君の心を安んじ下万民の疾苦を除き國家をして永く憂なからしむるの職にあらずや今君大に憂勞し玉ひ國民すでに死亡に頻せり然して民を救はんとするの心なく君の憂勞をも省す

徒らに常論を發し民の餓孚を待たば何を以て國家のために心力を盡くすの忠義となすを得んや我君命をうけ此地にいたらずといへども各々速に救荒の道を行ひ一民の飢渇の憂なからしめ然る後君に言上し危急といへども主命を待さるの咎めあらば其罪に服せんと是元より君に代て國を守り職をとるものゝ任にあらずや況や我君命を傳て廩粟を發せんとを請ふ猶之をうたがひ江都に伺んとす往還數日にあらざれば再度の其命當地に達せず民の死亡に及ばんと朝夕を待べからず各々君命を得て廩を開くときに至らば饑民すでに過半死亡せんと必然たり救荒の道此の如くにして其至當を得たりとせんや嗟乎惑たりといふべし然ども各々の心斯にあらず言論何の益かあらん明日より各々斷食して役所に至り此評議決せん迄は必ず食すべからず飽食安居して飢渇の民を救ふとを坐上に論せば其民の困苦をしらず何れの時か評決するとを得んや今飢民の事を議するに自ら食を斷ちて之を議せば其可否論ぜずして自辨せん某も亦斷食して此席にのぞまん各々必ず此の如くせよと其聲雷の如く一坐大に驚き且當然の理を感じ即刻廩粟を發せんといふ先生直に倉廩に走り速に藏を開く可きの云々を守者に達す守者曰君命あらざれば豈開くとを得ん子の言に因て之を開かば後難免るべからず先生曰 某江都に於て未だ役所より達するに違あらず汝若し開く能はずんば我と共に飲食を斷ち其命を待つべし領民饑歲のために露命一朝夕にせまれり何ぞ平常の事を以て之れを論ぜんやと大音に之を戒む守者某先生の一言に服して倉廩を開く。

女學史料

助教を横濱より迎ふ

明治七年の頃一ッ橋通りに官立女學校といふものありき後十年の頃に到りて女子師範學校の豫備科となれりけるが其頃女子にして英語を敎ゆるもの少なく讀本をすら〳〵と讀めば人々めでたきことに言ひあへりし程なり左れば官立女學校に於て女子の敎員なきに困み横濱より英語を能するものを迎へて助敎となしぬ服部氏の姉なるは則ちこの人なり。

新榮女學校の由來

明治五六年の頃築地にクラハム氏といふ人ありて日頃女子の敎育に心掛け左る人と合力して女學校を建て之を四十二番女

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

學校といひきヤングメン女史其後を繼で計畫一年半に及びしが更に原女學校六番館女學校と合併してミセス、ツルーの擔當となりぬ其頃の目的といふは高等の敎育を旨とせずして日本普通の家庭に相應し女學校敎員に差支なきものを養ふにありけり矢島楫女史是時に來りこゝにまた校名のなからんやと學舍の新榮町にあるに因みて則ち新榮女學校と命じたり。

矢島楫女史始て感謝會を司る

矢島女史の四十二番に入りてツルー氏と協力の約をなせしや未だ神を信ぜざりけり其頃校内の高弟ともいふべき女生七八人ありて皆英語に熟し神をも信じぬ一日女史敎師の故を以て校内感謝會の司會を頼まれしもさることにはうとしとて辭りけるが聖書のみを讀みて給はれとあるに否み難くてうけがひつ聖書を開きて見れば文章支那譯なりけり大學中庸は習ひもしつれかゝる難文をいかゞせましと困却の末に一策を案じ直に敎師安川氏の門を叩きて意を通ずれば氏笑てこれを敎えぬ感謝會に當りて女史聖書を捧げて讀むに音聲流るゝが如くなりしといふ。

學生の氣風

未信者にして四十二番に入りたる矢島女史には其禮拜のおり〳〵奇異の感のみぞ多かりけるが一夕祈禱會に出でゝ祈禱を聞くに友を愛せんといひ師を敬んといひ謙退の德信仰の念もがなとあるに女史三嘆して此節の人は年こそ若けれ感ずるに餘ありと思ひぬ出でゝ其人の行ふところを見れば德容前に祈りしが如くならず左れば女史が道に入る前宗敎を疑ひしこと少からがりしとぞ。

新榮女學校のはじめ

新榮女學校は其はじめつかた職員といふもの邦人四名外人三名あり漢學を敎えしは桂、矢島女史の二氏數學を敎えしは佐伯氏取締は山本ひさ氏にしてデビソン、ヤューリック、ツルーの三氏は英語を敎えしが其頃學生合計四十八程ありしといへり。

矢島楫女史守袋を水中に投つ

矢島女史幼にして小說を好みければ家姉の兒なるを抱きて草紙を讀むを常としたり某の日家兒熱氣のありけるをすや〳〵と眠るまゝにおしをき例の小說を竊に取出して讀みぬ佳境えも言はれずして家兒の泣くも知らざりけり母之を視て大に怒

り涙を流して敎誨のくさ〴〵を語るに女史膽に銘して、其言葉を忘れず、この時自らある人の歌なる

さきだゝぬ悔の八千度かなしきは
ながるゝ水のかへりこぬなり

とあるを紙に記しこれを氏神の守護に合せて母の作りたる錦の守袋に收め片時も身を離さでありけり其より東京に遊びて四十二番に入り神の道を聞きて悔悟一方ならず故ありて一度歸國の途に上りし時今迄身を放さゞりし守袋を取出し汐留橋より水に投じぬ。

○產婆

此頃は十六七才の產婆あり、寧しろ產娘と云はん方當れりと笑ふ人もあるなり。日本にては、德川八代將軍の頃ろ、彥根に賀川玄悅と云ふ人ありて理娩の術に精しく、始めて胎兒の位置を考へ、其生るゝや、頭を下に垂れて嚮ひ出づるものなりと發明し、產論を著わしたり。其技當時大に行はる。

○男女の湯

男女の湯を嚴に仕切るは明治十五六年の頃よりなれど、其初は德川、水野越前守の仕方より起りしなり。

論説

配偶論

バチラー、チフ、ロース、　大澤榮三

夫れ婚姻は人生至重の大典にして、男女親愛の情誼に基き、歡樂憂苦を共にせんが爲め、百年を期するの約束なれば、最も之を鄭重にせざるべからず、蓋し人間幸と不幸との岐路にして、以て其前途を卜するに足る、而して婚姻を爲すに當り欠くべからざるの條件三あり、曰く身躰の成熟、曰く思想の確定、曰く互に財產を管理して、子女を敎育するの任に當るの能力あること之れなり、若し身躰未だ成熟せず、思想未だ確定せず、未だ世味を嘗めざる者に向ひ、人間生成の道を許し、社交の大海に游泳せしめば、其浮沈實に期すべからず、其極竟に相互安全なる生計を得ざるのみならず、必ずや其害毒を子孫に遺すに至らん、而して社會の賢愚剛弱亦之より來る、未婚の壯年宜しく之を慮りて、前述の三條件を俱備するを務めざるべからず。

我輩曾て「ニューヨーク」新聞を讀み、「ニューヨーク」府に、

奇怪なる市場あるを發見せり、名けて「ワイブスマーケット」(細君市場とも云ふ)と云ひ、之を分て三級と爲す。「チヨルチ」「フハクトリー」、「レストラント」之れなり、上なるものは、其配偶を「チヨルチ」の靈場に求め、中なるものは、其技藝を爭ふ實業場裏の「フハクトリー」に試み、下なるものは、「レストラント」の約束最も易く、從て離合の速かなるものなり。抑々自由主義は米國の精神にして、如何なる場所にも貫通し、結婚の制度の如きも彼の佛國の如き、干渉主義は、米國男女の容れざる所あり、人固より好配偶を得て、幸福に、安樂に、相和合し相親睦し、嘻々の間に一生を消するは、社會の美事なれども、靑年男女が、意に適せる者を撰擇するに際し、自由を與ふるの餘り、汲々として一時の快を取るを之れ務め、反て百年の大計を誤る者少からず。我輩は、米國風の結婚は、人生の大典を輕々に看過したるものにして、之に干渉するの主義は、之を自由に放任するに比して、幾層の價値あることを斷言せんとす、壯年輩焉ぞ、「ワイブスマーケット」の中に、其好配偶を得べけんや。

輓近の統計表に據るに、現今女子の供給は、需要者たる男子に對して過多なることは、掩ふべからざるの事實にして、「ワイブスマーケット」に、女子の評價を下落せしめたるも、故なきに非ず。聞く當時英國に於ては、高等の教育ある、纖手細腰の令孃にして、其身を託すべきの良人を得ず、徒らに世の無情を嘆じて、不幸を其紅涙に訴ふる者、二百萬に下らずと。而して此例證獨り英國のみにあらず、初め女子の欠乏を告げて、之を英國に仰ぎ、烟草九十「パウンド」を以て、一人の女子と交易したる米國に於てすら、今や既に此傾向ありと云ふ。然るに英國時流の紳士等は、自國に於て、二百萬の可憐孃が其良人を得る能はず、薄命を嘆ずるに、一瞥見すら與へず、海山を跋渉して遙かに西大陸に至り、而も其母は、烟草九十「パウンド」を以て購はれたる、米國婦人を娶るもの多しと。夫れ英國婦人の特性は、優美にして尊嚴あるにあり、而して米國婦人は粗暴輕佻の非難を免れず、然るに彼等英國紳士が、內を棄てゝ外に本むるは何ぞや、我輩其好奇心に富めるに驚かずんばあらず。英國の女權如何に盛なるも、之れが輸入を防ぐが爲めに、保護税を科する能はざるべく、又議案として國會に下付するとも能はざらん、我輩英國二百萬の可憐孃の爲

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

めに、其薄命を弔するに切なる者なり、歐洲諸國の壯年は、此結果として、經濟上需用供給の原則により、早晩價少くして多藝多能なる、良妻を得るに至るや知るべからず、或は延て東洋の我國迄、其餘波を及ぼすことなからんか、未婚壯年早計に失するを止めよ、英國女子の薄命は、彼等の僥倖たらざるなきを保せんや。要するに壯年輩は、切に配偶を得んことを渴望することとなり、其必要なる準備を爲し、時の至るを待ち、而して後徐ろに之を求むるも遲きに非ざるなり。

然れども時至らば之を逸すべからず、價直の高低問ふ所にあらず、人種の黃白論ずる所にあらず、彼れ我を愛し、我れ彼れを慕ひ、意氣相投合して、百年の苦樂を分つに足る者と信ぜば、一刹那の躊躇をも爲すべからず。去れど結婚を擧るの前にありて、其必要なる條件を、具備するや否やをば、深く思ざる可らず。之より、如何なる種類の女子を將來の好配偶として聘す可きやを研究して、江湖壯年男女の批評を乞ん。

壯年輩が求む可き配偶は、古今の歷史に通じ、治亂興敗の跡を詳かにせる、「ヒストリカル、レデー」にもあらず、女子に參政權なきを憤ふり、動もすれば政府に反對を試みんとする、「ポリチカルレデー」にもあらず、徒らに新奇を好み、流行を追ひ、長くも有らぬ骸骨を、無限の財を抛て裝飾せんとする、「フハシヨネーブルレデー」にもあらず、斯の如き者、善は乃ち善、美は乃ち美なりと雖ども、未だ以て、淑德ある良妻と云ふべからず、一家團欒の快樂を全ふするに足らず、壯年輩は、法外の注文を爲すべからずと雖とも、妻たるべき者は、夫の財産を濫費すること、塵芥の如く輕んずることなく、去りとて朋友の義を欠き、良人の交際を傷くるが如く、吝嗇に失すべからず、深窓の內に在りては慇懃良人に事へ、能く位置と見識とを尊重するは可なれども、朋友知己に接するを迄嫌厭するに至りては、決して良人の利益にあらず、去れど分限をも辨へず、此處の集會彼處の舞踏と、限なく飛び廻り、終には世事に關係するの極、知人の媒約等をなし、反て良人を煩はすは忌む可き事なり、唯々諾々、一意良人の言ふ所、命ずる所に從ひ、卑屈無感覺なるも宜しからず、去ればとて餘り活潑に過ぎて、良人に一歩をも假さず、論難攻擊の末、之を決鬪に訴ふるが如き、殺代主義も亦避く可し、良人の擧作進退、安否動靜に注意して、失行なからんことを祈るは

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

殊勝なれども、兩々相携ふるに非ずんば、寸歩をも出るを許さず、公事に奔走するも、定時に歸らざれば、直に祕密探偵を派遣するが如きも酷失なり、斯る惡癖ある女子は、如何に智識に富み、學藝に達するも、斷乎として拒絶せざるべからず、然らば人の良妻たるべきは、果して如何なる婦人を擇むべき、只前項に抵觸することなく、柔順に、優美に、仁愛の淑德に富み、其容貌花の如く艶麗ならざるも、能く世事に熟練し、内は一家を主宰し、外は良人を奬勵して、内を顧みるの憂ひなく、世事に當らしむるに足る者之れなり、父母の慈愛も、朋友の親情も、生涯休戚を分つて契りたる、良妻の熱心に比して、等差あるや必せり、若し其妻にして、國家を思ひ良人を思ふの、節義貞操ありて、其良人をして、世の爲には身命を抛て、力を致さしむるを務めなば、始めて眞正の快樂を望む可し、壯年男女斯の如きの眞愛を以て一致したらんには、之れ乃ち多望成功の人にして、大業を社會に起し、光彩を万世に燦然たらしむるも、蓋し難きに非ざるなり。

試に思へ、那翁か歐洲を蹂躙して、威名千古に赫々たるものは、固と其卓越無比の俊傑なるに因るべしと雖ども、内に之を助くる者あらずんば、焉んぞ斯く著名なる大業を成功するを得んや、那翁自ら誇て言へり、世間廣しと雖ども、「ジョセヒン」に比すべきの婦人はあらざるべし、我れ今日の大成功を得たるは、「ジョセヒン」の力與つて多きに居ると、眞なる哉、「ジョセヒン」一旦去るに及びて、那翁一敗地に塗れ、蹈跡復起つ能はず、那翁にして此才貌双美、完全無欠なる良妻の助なかりせば、其志望を達すること、斯くの如くなる能はざりしならん、「ジョセヒン」死するに及び老も、幼も、敵も、味方も、泣かざる者なく、悲歌を以て弔せざる者なし、其葬儀に際しては、那翁をして零落せしめたる、歐洲各國の帝王すら、肅然會葬せるは何ぞや、實に「ジョセヒン」の淑德厚大にして、衆望を得たるに因らずんばあらず、假令事に大小あり、位置に高低ありと雖ども、其良人を思ひて之を補助すること、斯くの如き良妻を得て、一生の苦樂を分たば、何等の幸福か之れに過ぎん、人の夫となり妻とならんとする者、深く鑑みる所なかるべからず、夫れ獨立獨居は、社會自然の秩序配合に背戻するものなり、故に男女壯年に及んで、其の配偶を得ざるは、一大瑕瑾と言ふ可し、嗚呼男子をして、不世出の英雄

たらしめ、未曾有の豪傑たらしむるは、半ば其夏妻の眞心より湧出する、愛の勢力にあることを知らば、世の女子たる者、自己責任の重にして且大なるを思はざるべけんや。

史傳

二宮德尊翁

北村透谷

尊德翁は余が鄕里の人なり。曾つて之を一父老に聞く、われ昔甚だ窮乏せる時金次郎我が爲に致富の道を授けたるを以て今日の樂境に達したるなりと。金次郎（尊德翁の實名）生るるに一塊の領土なく死するにも亦た富榮を以て去らざりし。荒蕪廢滅せる田墟を拓いて鋤犂其肩を離れず、其間に窮孤衰老を扶助するが爲めに寒宵月入つて眠る事を忘れ、其肘裡夙に既に一村の安危を負ふ所の者は高く既に一國を負ふの忍耐と局量を備へたり。

其終生の事業は一太夫の家を整へ某々邑の財務に當り某藩の問ひに顧みたる等に過ぎず。而して彼が此小事に當るを見れば、再三固辭するの後、甚しきは辭する事幾有年に亘り而して後妻子と離盃を擧げて出づ、辭する時は羊の如く怯にして出る時は蹶然猛獅の奮迅するが如し。業に當るや孜々營々落葉をだも地に委せずと言ふ。其野州にあるや同僚の武士彼が匹夫より出で君主の拔用する所となるを嫉みて百方障碍を試む、而して翁の爲す所は彼輩が爲に特に酒肉を購ひ唯だ沈醉せしめて其隙に事業の功を進めたりと言ふ。翁の苦慮察す可きなり。故小山春山余に語れる事あり、（春山は幼時翁に野州に從ひ居たりし人）翁は書を以て講ぜず古人に隨つて遊ばず說くところ談ずるところ一々其胸臆より發すと。春山又た駿遠に遊びしことあり該地に於ける報德社なるもの盛況宛然たる一神社にして而して偶像を有せざる者なりと。

尊德翁苦學して略ぼ學道に通ずるに至りしかども未だ以て儒學の一家を成すに足らざりし。彼深く信仰を抱きしかども未だ以て宗敎家たるに至らざりし。彼が懷抱せし信仰は蓋し經典の文字を通じて來らず、其の眞摯着實淸廉勇猛なる天資が轗軻崎嶇たる人生の行路に遭ひて恰も奇代の名琴が烈々たる荒颷に撥かれて自然に逸韻妙響を發し、聽かるゝ事なく稱せらるゝことなく自ら鳴いて自ら絕へたるが如きなるか。斯く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の如きは實に天來の朴直なる信仰にあらざるか。釋氏を說ず、神道を談ぜざる尊德翁は堅く天地の華美人心の調和進みては人界に天國を來する極意を自信したりし人なり、故に其溫顏微笑の中に精妙なる眞理をあらはし、俚諺簡語既に人心を矯むる事を得たるなり、豈炎々たる心中火あるにあらずして能く斯の如きを得んや。彼は自ら信ずるの外一點の自らを高むる所あらざりき、英雄を夢み、講壇を想ひ、邦土を欲し、聲譽を希ふの徒は翁の眼前に局促たる江軻の如し、昨日凍餓に瀕したる小民の今日綿衣を着くるを見る時に翁は滿腔の涙を灑ぎて感謝したるなり、神を知らざる世と言ふ勿れ、翁の如きは感謝す可き目的物を信じ居たるは明らかなり。死者を送る翁は天國に歸る人を歡送する今日の牧師に讓らざりし生者を撫育せんとするの熱情も安んぞ今日の宗敎家に遜る所あらん。一言之を盡さば、翁は希代の理財家にして而して獨得の大信仰を有し天來の心内生によりて終生を犧牲的に職事し了りたる人傑なり。彼の英國の奇俊ジョルヂ、フォックス、を激稱せしサルタ、レザルタスの記者今日若し有らば必らず疾呼して尊德翁を英雄の一人に數ふるなる可し。預言者の故鄕に於けるが如く余が鄕翁を出して翁を知る者甚だ稀に僅に福住正兄の書せる小傳の少數の讀者を得たりしのみなりき。然るに圖らずも昭代明君の鑒識に會ひ一匹夫に生れ一匹夫に終りたる二宮尊德翁過ぬる年には講話の遺存せる者を乙夜の覽に供し奉り、過日再び君恩の優握なる階位を賜ふ、從四位甚だ尊からず、唯だ草莽の一田翁斯くまで高顯を受くるを見ては吾人誰れか感涙に咽ばざる者あらん、今日の政界に小名譽を弄し溫袍を着美酒を貪り花顏を蓄へ以て田夫野人に誇負せんとする者須らく慚死す可し、區々たる議士の榮達を以て脾肉の滿肥するを覺ゆるの輩、重箱の隅に食を爭ふ猾鼠の徒須らく愧死して再活す可し。知らず尊德翁余が蕪言を草葉の陰に容るゝや否や。

寄書

東京に遊學する少年の父兄及監督者諸君に告ぐ

木村駿吉

拜啓　近來東京市中賣淫店非常に增加し就中學生の最も多く寄留する處に於て最も著しくして陰險百出巧に少年の精神を蕩し僅に十五六なる無垢の少年を誘ひ其生涯を誤らしむる如きは最も慨歎の至に堪へず候此等の賣淫店は種々なる方法を以て少年を同宿生又は監督者の手より誘ひ出すのみならず案外最も手近き所に賣淫するものありて其實狀に至ては極て酸鼻の外無之候而して彼の尙幼稚なる少年の一度是に出入するや父兄を誑て金錢を貪り尙足らずして書籍衣服を賣却し假ひ一朝悔悟することあるも既に身に梅毒を受け學資なく一方に賣淫店の誘引を受け一方には借財の返却を促され出入其心を安んぜず書見其神を止めざる樣に立到候は小生の毎に目擊傳聞する所に有之候よしや靑年の節は多少の放蕩は容赦致すべしとの議論もあらんなれ共こは社會未開の時のことにして當今の如く社會進步の速かなる從て個人競爭の烈しきに際しては一度の蹉跌其人百年の遺憾を來し勤勉の好歲月を空しく泥土に委するに至ては國家千歲の遺恨是に過るものなしと存候其潔白なる精神を殺し其父母より稟けし身體を不具となすに至ては更に慨歎の至に候此の如き少年は必ずや父兄に金錢を請求すること急に多く學業の成績急に低く學資缺乏の爲め又は淫逸心の盛なるが爲め故なくして學校を休み又は出欠恒ならざるに至ることは小生の實際取調たる所に於て明瞭に有之候得ば父兄及監督者諸君に於ては兼て定額外の金錢は其慈母又は親戚より送ること勿らしめ其試驗の成績急に低きあらば一應其原因を取調べ尙ほ時々學校に就て其出欠の故なくして不規則なるか又は一月も續ひて缺席することを知らば尙進んで其行跡を取調るの價値あるものとして大過なかるべくと存候兼て無邪氣温和にして縞袴を穿て破服を着するものとても中々以て信用すべからざるものあり監督者の許に居る少年とても此の如きものあり況んや單身東京に在り其爲すに任せて顧みざるが如きは實に危險の極無事の少年を淵藪に投ずると異なることなしと存候尙ほ有志の者にして東京市中書生の狀態を取調ぶるものある由なれば遠からざる内喫驚すべき報告も有之かと存候小生は一日も早く有望少年を救ひ其正しきに復らしめ度茲に諸君の御注意を希ふ次第に候頓首。

○咄々怪事

天下の義人皆起つて同胞を救はんとする時、三文錢をもて、寡婦孤女の一生を魔界に引入んとするものあるは、何等惡むべきの極みぞ。愛岐の同志者、官に迫り、遂に愛知縣警察は非常手段を用ひて之を防ぎ、岐阜縣知事は内訓を發ずるに至りぬ。万目皆な此般の事に新たなるの時、あゝ何等の醜ぞ、更に左の類の怪聞を聞んとは。其地同志の義人諸君、決して之を容赦すべからず、必らずや斯る惡敎師を追放すべし。

三重縣師範學校の敎師が生徒を引卒して北勢地方に遠足したる途次桑名にて妓樓に上りしとてその議縣會に上りし由は已に記したるが尙ほ三重新聞の報ずる所に據れば右敎員木原近義氏外二人は其の砌同町字川口町出口小左衞門方に一泊せしが午後五時頃より相携へ旅宿を出で柿八樓にて酒食に飽きたる上同樓を出でたるは十一時頃なりしに翌午前一時頃に至りて始て歸宿し又た生徒十五名は同日午後六時頃敎員の不在を機とし正服の儘打揃ふて某々樓に上り枡半の金助、笹屋の鯉吉、熱田屋のヲモチヤなんどいへる妓を聘して席に侍らしめ愉快を盡して後ち夜の九時頃旅宿に歸りしやの風說ありといへり。

女報

可愛子編

●大地震に付ての女報（其四）

●聞くも涙の種　愛知縣下に於て、大地震の時、母と娘と逃れ出づるものあり、地裂けて母其中に陥る、娘之を救はんと欲し、身を躍らして地裂の處に入る、深さ幾丈、生きながら母子を埋葬し了る、嫣魂招けども來らず、秋風空しく枯條に叫ぶ。

●皇太后陛下岐阜への下賜金　同陛下より、罹災救助として金千圓下賜せらる。（二十日午後岐阜特發）。

●皇后陛下の御仁德　陛下は嚢に罹災人民救恤費として御手許金を下賜せられたるが、猶ほも追々寒氣に向ひ細民は嘸ぞや寒威に堪へ兼ねんと大御心を悩ませ給ひ、此の程慈善會の名夫人方へ速に細民に贈るべき衣服を調度すべき令旨を賜はりたれば、各夫人方も陛下の御仁德の程を深く感佩し昨今衣服の裁縫に忙しとぞ。

●皇后陛下の御思召を傳ふ　（名古屋十一月二十日午後特發）長崎宮内大臣秘書官は昨十九日より今二十日迄、愛知縣下各村の九病院を見舞ひ、入院患者へは皇后陛下の厚き御思召を懇切に傳へ、併せて數多の御見舞物を惠與せしに、患者何れも鴻恩の有りがたきに感じ、手を合せて涙に咽びたりと云ふ。

●三宮夫人の勸誘に應じて　伯爵松方家奥中にては、綿入三十枚、袷十枚、洋服十四枚、襦袢十六枚、肌物二枚、ヅボン三枚、足袋十足を、公爵岩倉家奥中にては、蒲團類十一枚、古着百三十九品、木綿反物十三反、古着五十一品を、何れも震災地へ寄附したり。

●愛隣會治療所　にては今回濃尾震災の報に接し、治療用消毒綿紗五十反を岐阜縣廳に宛て送付せり。

●大坂佛教婦人會　大坂佛教婦人會理事者岡法城、松岡觀了の兩氏并に同會員數名は、彼の大地震の際岐阜縣に在り辛ふじて逃れ出でし由なるが、同會員等は去る十七十八の兩日奈良大字中院極樂院に於て震災地の圖画百枚を幻燈に寫して其實況を示したる由、當日傍聽人小牧同縣知事の夫人始め高等官の夫人數名其他町民數百名にて中々盛會なりしと、又右の會員等は過日伏見文秀女王殿下の招きにより同殿下へ出頭したる由。

●神戸英和女學校　にては本月四日大賀氏が全校に於て震災地の實況を話され、翌日青年會より義捐金品募集の依頼ありて後始て救助の相談をなされ、始は青年會へ寄附さるゝやに聞しが爾後全校は獨立して之に從事することに決せしとか。

●大坂梅花女學校生徒諸氏　は白木綿を購求して繃帶となし、震災地に送れり。

●越後高田の基督教徒　目下罹災者の困難を感ずるは日用什器の欠乏にあるべしとて、汎く有志者より古着蒲團等の物品を募り、又森山信一氏の妻君は近傍有志の婦人十餘名と共に衣類の募集に非常の盡力をなし居れりといふ。

●京都人士の義捐　在京都華族一同は金百圓を、京都婦人慈善會は金貳百圓を、婦人慈善會員福田モト女は金百圓を、尾越京都府書記官は金三十圓を、男山八幡宮神官一同は金十圓を、下京不明門通松原下る安盛善兵衛氏は金三十圓を、何れも京都府廳を經て尾濃地方へ送附せり。

●京都に於ける去る十四日の保姆會　にては協議の上保姆一同より積立てたる集會經費中より金三圓を義捐し猶各自無名封金として震地に送ることに決したり。

●片々たる一種の義捐　淺草公園の娘玉乘興行は、揚り高二十三圓を震地に寄附し●婦人德義會にて催せる女演說會は、辨士數名滔々と演說し、餘興に手踊りをなしたり、其金は之を震地に寄附せんとす、之を聞きて歎息する人もありけり。

●正教婦人矜恤會義捐募集　神田小川町五十七番地中井木菟麿氏方の正教婦人救恤會にては、尾濃震災者の爲めに衣類を募り之を送與するよし。

●神田共立女學校　岐阜愛知兩縣下罹災の女兒救助の爲め、同校にては自製のメリヤス襦袢數百枚を贈與したり。

●櫻井女學校　にては、更に又金五十錢を義捐せられたり。

●地震幻燈及び勸告會　は去る二十三日夜、本郷春木町中央會堂に開きぬ、多くの幻燈、想像畫、慘憺、悲哀の光景を目前に現はす、星野愼之助、飯野吉三郎、巖本善治、三氏が地震に對する所感警戒並に傳道の急務を訴ふる演說あり、又明治女學校の唱歌あり、門外雨瀟々として、堂内人肅々たり、辨士が熱心の聲は、反響して正義の男女、心よりの寄附金せり、金錢の持ち合せなしとて、純金の指環を送られし人もありたり、當夜の傍聽者には婦人多かりし、婦風會よりは矢嶋かぢ子、横井とよ子、荻野ぎん子氏等臨席あり、又明治女學校生徒は種々周旋盡力せられたり。

震地傳道隊通信

同隊の一人より社員の許に寄せ來りし書簡に曰く。

名古屋救濟會の意見及び同地の經驗ある人々につき將來運動上の意見を聞く爲に名古屋琵琶島に於る正面の傳道は飽迄害ありて益なきを聞き略ぼ其方法につき決心致候夫より笠松に來り見るに三澤君、廣瀨女、大塚女が療治法如何にも親切にして大に同地官吏の心を動し亦民間具眼者の注意する處となり最早殊に官吏は縣令を初め村吏に至迄基督教徒の博愛に感じ郡吏は甚だ厚意を表し居り候然れども一般の人民を視るに非な頑愚にして中々教理に耳を傾くるゝ能ず我等に談話中と雖ども一言答て念佛し念佛して又一言を語る其迷信亦甚し○竹が鼻も亦最も佛教固信の地にして本願寺の金庫と謂ふも敢て過言にあらず此地は嘗に正面傳道をなし琵琶嶋にて大失敗を取りたる人々の再旅を擬し地にして名古

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

屆よりは英和學校其他の青年京都の同志社大坂の青年會員仙台の英和學校等の青年相結合して救助し居り今日迄七百名計患者を療治致候又此地より一里半計の處に一の枝と申處有り此處にも大坂の青年會より救助致し被居同く百名計の療治を致し被居候處以上は未だ基督教の入らざるの地方故今日は到底正面の傳道難成たゞ播て他日傳道の基を置くの精神にて居り候然しながら笠松は不日求道者の起るべき樣にも思ろ又た大垣は最初より病院を置き種々盡力され今日に至り著しき結果を見ろに至れりと殊に岡山孤兒院の如きは七八名も力を協せて最とも有益の働きを致し被居候本日岡山孤兒院の小橋氏外兩氏等と會合致し將來の運動上に付大に計畫致候、今日此大垣の實況情勢を視察するに累年水害續き義捐金を幾度か受たる慣習ありて義捐金今は受べき者の如く心得之れより生ずる弊害の多きは識者の篤に知る處也然るに世の慈善家は只表面上の救助をなして一時の助としては結構なるに相違なきも今や食物には困るとなく壯健の者は自活に差支へなし、されば今救助金の施與は彼等が益々惰心を增長せしむる所と存候然るに將來に向て策を立る者少なし吾等玆に計る處有之候又關西地方よりも年少の女子を買入ん爲め續々入垣する者もあり此時は恰も善惡の修羅場の如し吾等の同志者は官吏に計り猾子惡漢の容易に爲さゞる樣警官にも通じ置きたり又岡山孤兒院にては今回機敏に最有益の働き被致京都大坂神戶の青年等より熱心の信者を送り其事業を助け物品も續々送り來れり其忠實博愛感ずるに餘りあり今日の時は實に亦得難き好機會東京信者の冷談誠に面目も無き次第に御座候善後の策としては將來に向て義捐金を可成募り之を積み壯丁には起業資本に方法を立て貸與へんと可なり若し此儘に經過する時は多數の乞食を出し盜子を作り出すと目前に迫れり之を救の急務とし本日好位置に家賃安き一大家屋を岡山孤兒院の手にて家賃月五六圓位にて借入るゝ約なれり此家屋は二棟ありて一棟の如きは九の間の間取ありて五六百名の人を容るに易し此處にて他日貧民學校を開くに宜し又一棟は信者の下宿家即ち吾等の部屋に當る也此際の運動は東京の氣を一振せしむるの刺激となり亦我素志を貫く端緒と相成候に付明後日頃より孤兒十有餘名を引連れ一と先歸京仕り直樣又々當地方へ歸り度心算に御座候今回吾等が岡山孤兒院と結托致候運動は各自の宗派黨派心を棄て同志團躰の大なる運動を試むる決心にして中々此旨筆紙に盡がたく孰れ歸京萬々詳細可申上候也。

將來働處及其會計方法等に付大に決心致處有之候尙孤兒は各地合せて凡八百名斗有之候此等東京京都神戶岡山に於て悉く救助養育致すの考に御座候也。

小暗處にて漸く此處迄認め終りぬ

二十二日夜岐阜に於て

●皇太后陛下　は三十有餘日の久しき御旅行の末去る十六日御機嫌能く京都より還啓在らせ給ひしに付、天皇陛下は御歸京を祝し參らせんが爲め去る十七日侍從を青山御所へ差遣はされ、九條公爵を始め御外戚の諸氏宮內高等官は同參殿して祝詞を申上げたり、皇太后陛下は賢所御參拜として兩三日の內宮城へ御參殿あらせらるゝ御都合なりと承る。

●池田邸へ行啓　皇太后　皇后兩陛下は、去る二十日午前十時三十分頃池田章政侯邸へ行啓あらせられたり。

●國會の傍聽席　には婦人席四十席を設けたり。

●共立女子職業學校　大木文部大臣は去る十九日共立女子職業學校へ臨校せられ生徒の授業の摸樣を巡視し生徒の手に成りたる色々の製品を買上られし由。

●大日本婦人教育會　同會は去る二十一日午後一時より鹿鳴館に開き、天爲と人爲の社會に及ぼす影響(三島一雄)、大日本婦人教育會々員に望む所あり（志賀重昂）地震の話(巨智部忠承)等の演說ありたり。

●幼稚園規則改正調査委員會　京都各學校にては今回幼稚園規則を改正する爲め尾越書記官は上京區にて、眞羽、戶野の二氏下京區にて、根元、中山二氏教育會員の增野氏外に女教師常川さだ、江村うた師範學校の廣瀨はんの諸氏を委員とし其調査を依托したるを以て去る十八日該委員會を開き該規則改正の草案を起草せし由。

●保姆集會　去る二十一日下京區第四尋常小學校に於て、上下京區各尋常小學校附屬幼稚園保姆を招集し、尋常師範學校の教諭戶野、安藤の二氏出席して教育上に就ての協議を爲せり。

●終身會員　滋賀縣私立教育會理事たりし大坂市立高等女學校長柴直太郎、同沖繩尋常中學校教諭下國良之助の兩氏は、在職中勉勵の廉を以て今度同會終身會員に込組みたりと。

●產婆開業試驗　新潟縣に於ては本月四日より產婆開業試驗を擧行せしに受驗者十人あり、內本縣免狀を得んとする者七人の內四人及第せしを以て直に開業免狀を下付し、又內務省免狀を得んとする者三人の答案は其筋へ進達せりと。

●產婆講習所設置　島根縣邇摩郡大家村醫師大崎啓助氏は私立產婆講習所を設置し、同所卒業の者は無試驗產婆營業特許の儀を出願せしを以て之を許可し、卒業試驗擧行の節は衛生官吏立合ふことゝせりと。

●約翰婦人會附屬大阪救兒院近況　同院は保姆俣野ますす子、及林可彥氏の盡力に由り着々事業を進めり。○山田大阪府知事の令室は痛く同會の事業を贊成せられ先夜役員壓內、鹽路兩婦同邸を訪ひたる節歡談數刻の末自ら贊成會員たらんとを申込れ、月々金圓米穀を寄附せんとを約されたり、○同院新築の資として金四百六十七圓程備へたり、大阪青年會幹事萬田龍次郎、約翰教會委員島崎靜太郎の兩氏は敷地搜索に奔走中なれば、不日にして美麗なる救兒院建物の新築を見るを得

べし。

●製糸工女を渡米せしむる計畫　長野縣諏訪地方製糸家中の有志者は來る二十六年シカゴ博覽會に生糸を出品し、其出品の効果を充分ならしむるため輕便なる木製器械を据付け熟鍊なる工女數名をして、縱覽人の目前に於て十二デニールより十三デニールの生糸を製出し、派出委員其側に在りて詳細の説明を爲し、我製糸改良進歩の實况を示さんとて、博覽會に委員二名、工女三名を派遣することに決し、其費用一人二千圓にして計一万圓となし、此三分の一だけを地方税ゟ補助を仰がんと有志者連署の上、同縣知事に請願書を差出す筈なりといふ。

●令嬢俳優倶樂部　本鄕區菊坂町士族稲毛幹子外二名の女壯士が發起して、改良女演劇倶樂部を組織し、市川粂八座の向ふを張り大に女優の要弊を一洗するといふ意氣込みにて、純粹の令嬢に限り加入を許す規約の由にて、遊藝師匠藝娼妓などは謝絶の事といふ一ヶ條ありといふ、さても浮きたる世の中なる哉。

●廣島の尤物　と呼ばるゝ藝妓三名許りは議員召集令に應じて早くも上京し居るを見たり、此は廣島議員の携帶員なりと、毎日新聞は記せり。噫是れ事實か。

●廢妓の建白　伊豫國宇和島町に於ては愛媛縣會に公娼全廢の建議起れるを幸ひ有志結合して速に認可ありたき旨縣知事に建白せんと働き居る由、尚聞く所によれは基督教信者は藝妓全廢の建白をも爲すと云ふ。

●山梨縣廢娼議會　にては通常縣會の閉くるを待つて公娼廢止の建議を爲す筈にて其草案も既に出來上り、昨今會員の調印取纏め中なりといふ。

●千葉縣下の廢娼運動　縣會は去る十五日より開會せり、廢娼建議の出づる近きにあらん、右問題に付き千葉町有志の女子は頗る奔走せり。

●福島縣下　にては目下廢娼建議に、廢娼演說に、頻に奔走中なり。

●嚴霜に咲く菊花　京橋區東湊町十八番地に久しく船來の道具を商業として、日毎に繁昌したる今泉宗兵衛といふあり、去る明治十四年の末より不圖手違を生じて二千餘圓の借財を生じ、宗兵衛の心痛一方ならず終に之を氣病にして身罷りければ、取殘されし妻のお歌は淚に眼腫れ上りて共に消ぬべく思ひしも親類縁者に慰められ、纔かに心を取直せしが、何分負債に責められて一家立行き兼しを見て、皆々口を揃へてお歌に勸め、家を惜みて再縁せば又好きお日樣の照る里あるべしと折に觸れては諫むるを、お歌は耳にも入れず、假令女の痩腕なりとも是しきの家をやわか取戻せぬことのあるべきやと、心に決して從來の番頭手代に暇を遣り、一人の小僧を相手にして今日まで十年一日の如く寡婦暮しにて今茲三十八の十年目に目出度二千餘圓の負債を償ひ、店の信用は良人在世の時にも増して業榮する樣になりたれば、先きに再縁を勸めたる人々は皆赤面するばかりなりしが、お歌は志望漸く叶ひたればとて去る十四日親戚知人を招き、亡夫の追善を兼ねて祝宴を設け、當時の艱難を物語りければ一座感淚に咽びしとぞ。

●露國公使の御暇乞　露國公使シエーウヰチ氏は不日歸國の途に就かるゝを以て御暇乞として去る十九日夫人及令嬢を伴ひ、午前十時參内、公使は天皇陛下に、夫人及び令嬢は皇后陛下に謁見仰付られし由。

●外國人と日本婦人の結婚　横濱居留地四十一番館の米國人ヘンリー、センドコーリーロベルト氏は、此程石川仲町四丁目八十一番地小川かくと結婚の約整ひ去る十八日其式を行ひしが、總て日本式にて大小、上下を着し高砂や此浦船に帆を揭げてと四海波風穩かに目出度式を了りし由。

●皇太后萬壽日　去十一日は清國皇太后誕生日に相當するを以て、清國一般何れも公務を廢し、刑名を中止し、文武百官及各兵營一同官服を著し賀儀を擧ぐる等の例なるが、上海にも清國官衙は勿論代理英會審院より英米領事に照會し各捕房に飭飾し、三日間一切罪人に關する刑役審問等を中止せしめたり。

●ラマバイ女史　來る千八百九十三年の世界大博覽會と共に米國シカゴ府に開く婦人大會には、品格高く教育高き一個印度の淑女出席し印度婦人の狀態に關する問題に付き討議する所あるべし、此淑女の姓名未だ公示せられざれど、惟ふに必ず彼の憐憫の女丈夫ブンヂタ、ラマバイ女史なるべしと。

●西班牙の皇太后イサベルは曾て皇太后を失ひ奉らんとしたる叛逆者が巴黎に於て餓死せんとする由を聞き、五百フランを送り玉へり。

●記者クラブ。記者クラブにては婦人記者の入會を拒絶するに當り、アルメー、べザント氏其理由を述べて曰く、婦人等は恐らく年々捐金すべき五ギニアの金額に堪ざるべし、そは婦人は多く收益金少なき宗教上の事を記載すればなりと、然して其がる一二の實例を擧げ且曰く、婦人記者は到底激務なる男子と同會せざる方万事に都合宜しかるべしと。

●支那婦人救濟會。エドホルム夫人はパシフイクエンサイン紙上に桒港サクラメント街九百三十三番に支那人救濟の爲建設せられたるユニテリアン、ユニオンホーム事業に就き掲載せられたり。ホームは嘗てカリフホルニア州婦人矯風會々長として久しく盡力せられたるフラングブラン夫人の會長にして創立以來漸やく十五年を經ぬ而三百人許りの女兒或は奴隷より救濟されし女子は既に教育を受け眞理の教を奉じて同じく基督教信者なる支那人の妻となれり。カルベルトソン夫人は支那人中に普通の不德を擧げて曰く、米國に渡來せる支那人は多く恰も此國南部に於ける過去の奴隷の如き樣にして、小兒は奴隷商の爲に誘拐されアメリカに送りて同じ支那人中に賣らるゝも小兒逆待保護會員ハンメー並にホルブルーク氏等の盡力により三等女兒の多數は再び其購主より救濟されたりといふ。此かゝる樣なるを以て正義を重んずる婦人殊に矯風會員等が此不幸なる異國婦女の爲此ホームを設けて彼等に高尚幸福なる生涯を興へんと欲するは又止を得ざるの勢なり。此等不幸の女子中には日本女子も多く混じ在りて、其救濟を得たる者は同聽者の處に通辨者等となり來りて、共に救を乞んと誘ふの樣あり、又不正なるが爲母の苦しむる處の小兒等も多く、ホームの會となる。救世軍も又た同樣の救育ホームを桑港に設立しぬ、而してエリスウオイス氏并に同夫人は又他の同目的のホームを設けぬ。チヤーレスクリツテントン氏はサクラメント并にサンジヨセにフロレンス夜間傳道會社を建て毎夜傳道上の集會あるを見る。クリツテントン氏嘗て此救濟の働に一身を委ねし事の非常に幸福を覺ゆるなりと語り、且曰く、氏は早晩同目的ホームの鏈鎖を紐育より桑港、メキシコ灣より北方諸洲まで擴めん事を熱望せられたりと。

問答

可愛子

●問。たゞ今基督教の事に付き專ら記載せる、平易にして最も解り易き雜誌は何種ありますか、其名と、發行所を數へて下さい。●答。基督教新聞（本鄕區東竹町三十五番地警醒社發行）、福音新報（麴町區三番町十番地福音新報社）、護教（京橋區竹川町九番地護教社發行）の三種であります、其外野聲反響、及び日曜叢誌といふ雜誌も宜しう御座います。

●問。無想劍の作者暗光子の本名を伺ひます。●答。故ありてまだお明かし申すとは出來ません。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

震地傳道隊報告

婦人矯風會

○震災地特別通信　第一報

十八日夜新橋ステーションにて分袂翌十九日名古屋に到着す日午前八時半聖公會傳道師鈴木左馬次郎氏(同志社に於ける舊識也)と共に全城の西五里に當る一宮に至る途枇杷島淸洲等の慘地を過く此あたりの實況は已に業に凡ての通信に慣れたる所なれば普通新聞屋の事業を繰りかへすの必要なしと信ず然れども兩親兒姉等には一生懸命に破壁を除き堆瓦を片づくる必死の場合に不拘四五才の兒童は竹を股に挾むで將軍を擬し戰場を奔走するを一觀するに至り思はず一涙を絞り垂れぬ一宮に於て鈴木氏に分れ一行は笠松に向ふ過ぐる所皆な悲哀同感の形容詞あるのみ然ども愛知縣は一行が宜戰の線内に非れは敢て記せす木曾川に至る比既に一時をすぐ立て西岸笠松を望見せは可憐焦土燒餘の堆瓦と數樹の盤立するのみ河を渡り警察署に至り假病院の所在を問ふ途次漸く假屋の建築を見たり賤然たる笠松警察署の門標愍むへし席門の入口に立つ

笠松病院

陸軍々醫學會員及東京愛憐會員三澤君等との組織せる所にして婦人矯風會より派遣の醫瀨大塚二姉看病婦の分を執らる聞く今や三氏のクリスチアンたることは衆庶の默許の姿にして其親切懇篤なるには非常の感動を與へつゝあるなり故に此行無言の說教は將來の大收穫を期すへし然とも目今口を傳道に開けは必治の患者も靈肉の苦痛を治醫せらるゝを得す

始めは眞の假家にてありしか愛知諸教會の組織せる救濟會は三回に九百の診察所事務所の爲めに板拜の土間を設く病室として別に三間に十間の同し建物あり中間一間路を通す丸木を横たへ床となし蓆を敷せ開室となす入院せるもの老少男女合せて九名是日來り診を請ひたるもの百五十餘名前日より總て五百六十餘名近來益々增加するの傾向ありと云ふ重傷は少なし

此病院は木曾川の西岸に沿ひ堤腹に在り西を望めは田野茫々江洲の山岳亦近し伊吹山より川越峰を望めは高嶺雪冠を頂きて之を接吻し下ろす北風は身をきるか如し然とも訓聽せよ彼等は賤るに室なく着るに衣なく單の衣にふるふて身を縮めお[illegible]もあらばこ歩む乙女あり眼をこする老婦あり若顔默言せる傭夫あり余亦默然暗涙を頻つのみに東南を望めは水滔々として山悠々として靜に布帆夕暉を帶びて天地を閑領す若し新郎新婦として人間の幸福なるブライトサイドより此天地を一觀し來れは殆と仙化して造化と共に謳頌詠歎すへきも悲むときの喜はしきものほと更に悲きものなきぞかし

竹鼻病院

是日は尙ほ留りて三澤國手と相談したきことも聽きのこせしか午後四時頃本鄕中央會堂派出の小出君岡山派兒院派遣の原君の一行立ち寄られ竹鼻に行るゝに合す我一行も共に伴はるゝことゝなし木曾川の堤防を沿ふて下る堤壞烈容易車を馳す可らす黃昏僅かに病院に達す事務員丸茂謙吉君國手松島君等に面す皆な東京赤坂病院より派遣の一隊也本願寺別院の崩壞せる山門と殿堂は間にテントを張り一を診察所となし一を待所とす別に病室として草葺の民家あり入院せるもの廿名咋廿日の受診者百五十名始めより殆と五百名此病院も愛知救濟會の受持にして病室を新築するの計畫既に全し又來て助くるもの仙台東北學院神戸關西學院愛知藥學校等よりは九名の靑年あり。昨夜一行もテントの列に加はる深夜霜氣既に身に迫り眠を破る仰て凍月の淡影を望む亦悲快也と云ふべし

尙ほ陳すへきの辭述ふへきの感情胸に充溢す然とも霜氣人に迫り手龜縮して筆動かす僅かに机上の霜露を拂て之を手記するのみ今午前一里半を隔つる一の枝に至り大坂より來りて醫陣を張る知人飯野勝三郎氏を訪問すへし後に大垣に向ふの豫算也

因に云ふ竹鼻は一千二百餘戶中々富豪の家多しと云ふ是地亦回祿の災加はりたれば笠松と等しき通りに至れるもの也且つ此別院の崩壞せる中に埋められし客僧一名あり每日多くの人夫來りて堆積せる材木を除けども未だ見出すに至らずと云ふ

此テント病室等の寫眞あり郵送するを得へし

廿四年十一月廿一日　濃洲竹鼻テントに於て

湯谷磯一郎、藤井米八郎

○震災地特別通信　第二報

十一月廿一日(土曜日)第一報を認め了り直に竹が鼻テントを發し車を買して西南里餘に在る市の枝假病院に向ふ

市の枝病院

は同村寺院の庭に在りテントを張り診察所となし草葺一棟を病室となしたり是即大坂靑年會の特に設けたる所にして醫員飯野勝三郎氏助手數名看護婦一名にて組織せられ巡査一名亦庶務を執らる飯野君の注意により病室は陋からされども整頓せり同氏は三十一日大坂を發し一日より數ヶ所に於て治療を始め九日より同所に地をトし前後九百三十三名を手にかけたりと其内十七名死八十七名は不具となるへし新患者は日々減じて目下十五六名にすぎずと尙ほ本月中は留まり居るべしと午後直に車引をきゝへして竹が鼻を掠め更に西して

大垣

に向ふ二時四十分着直に三井銀行支店長なる同鄕人(但馬出石)磯野員爲氏を訪ふ同氏夫妻は大坂天滿教會員にして夫人は我女學雜誌年來の愛讀者也と云ふ暫くして磯野君に導かれ罹災の現狀を巡視しステーション側なる

救濟會事務所

に至る聖公會教師本田淸次及大坂沖田宮崎氏周旋せられつゝあり亦テントを張る歸り來り晚食する時に地震あり

廿二日七時四十分迄熟睡す蓋し疲勞の身暖床の中に包まる何ぞ甜里の佳境に入らざるを得んや

細君は微笑しつゝ

曰く夜中地震甚し妾は直に庭に出でぬ直に爾等を叫呼すると雖び然とも答へなし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

唯だ醵帷員息なきくのみ其内に止みたりと。晩野君の寓所も同しく全潰したり折柄氏は銀行に宿し居られしか夫人下婢は共に壓せられたるに二歳の令嬢は[illegible]にも覆ひかゝりたる屋根の上にほり出されて微傷もなかりしと又た本田氏にきくに氏は傳道の爲めに他處へ出張せしに此害あり其寓所にも火迫り前向ひには娼家(?)一家廿余人の壓死者あり隣にも三人の死者ありしか同夫人は病弱の身尚ほ十餘歳の小兒を相手に家具なと悉く片つけたりと

是日午前救濟會事務所に於て務員諸氏及岡山孤兒院派出員小橋勝之助等と共に大垣の將來の策につき大に談し先づ必要とするは本部を設くるに在り會堂となし又救濟事務を執り社會改良と傳道とを實際に併行すへき所也

廢娼的運動

に向ても既に役所に注意せる所もありたり聞く所によれは貧乏女子を買ひ取るために惡計を運らしつゝあるもの多しといふ故に是等の女子の爲めに正當の職業を他地方に向て周旋の相談計畫中也爲めに大坂に向て出張せしむの相談もありといふ又

孤兒救濟

前日既に岡山に向て第一隊十五名を送りたり目下尚ほ探索中也其數も中々多しといふ目下第二隊となして送るべきものも殆と廿名準備中也尚ほ目下

貧民學校

を設くるの必要ありとことは中々大事なれば容易く行ふことも能はざれども目下の急務なれば稱々心配相談中也目下

傳道

の端緒も漸く開けたり事務員は物品の頒與に際し十數名のものを集め説きて懇に救濟の目的を談し將來の心得を論すに大に感涙を流す者亦少からずといふ加之中以上の人民も官吏も社會も大にクリスチャンの行爲に感動し大に信任の有樣なれば大垣には直に傳道の必要ありと思はる而して宗派心なく

一のキリスト

の下に在りて東西相聯合し各派相結托して戰軍を關ヶ原に爭ふの時なるを感ずること一層也起きよ天下の義人各派の名士來りて此戰場に起て今や危急の機也實に危急の機也

關西の大震災

は吾人東京派出員の大に愧つる所也彼等が働きの活潑なる團結の鞏固なる實に其機敏感すへし關東の士關より爲めに心を傷め胸を苦め焦慮せざるに非ずとも關西人の熱心に及はざるは切に自ら感ずる所也故に一行藤井君は前日の後孤兒十名を提げて東上し一は實況を報告し一は尚ほ救濟を盡さんとす前隊の大垣本部は數日の後所務結了の上東上すへし

午後一行は岐阜市に向ふ途美江寺はすく戸々皆な倒れ草葺の家根に半紙に壓死一人或二人或は七人を九人と記して改めたるなどあるに胸をつき心を刺すの思ひあるに尼花かくれに見渡せは新墓にや紙幟の數多夕風に翻々として打ちなびくさまゝ嗚呼何等の悲境ぞ是日天亦暗憺更に悲哀を加ふ假の村役場に至り尋ぬるに此聯合四ヶ村は震害の甚しき衝に當り

五百戸の内僅に八戸

のみ辛ふじて殘れりといふ試みに美江寺にての統計を案ずるに人口七百九十六人の内廿六人死亡三百八十名負傷救助を受くるもの全數なれび救助に預かるもの七百十一人亦以て慘況を疑ふに餘りありといふべし且つ柄川の堤防も痛く破損したる樣驚くに餘りあり然とも今之を略す三時半過ぎ五里を經て

岐阜に着す

直に救濟會事務所に至る宣教師チャッペル氏の宅の側にテントを張り兼會堂となす岐阜の現狀及善後策に付ては尚ほ明朝南小柳氏と熟議せんとす是夜説教をなし時なく僅かに破腦を絞り聞めて一願となし第二報と標す

十一月廿二日夜十一時岐阜テントに於て

因に云ふ明日岡山に向ふべき孤兒九名共に在り相笑ひ相語り相抱き相戯るゝ樣を見て悲しく見えざるには更に吾儕の腸を絞りぬ

明廿三日一たび笠松に至り預けたる行李をおさめて直に大垣に歸らんとすし該地を以て一行の本陣となさんとするに最も適當にして機敏なる運動を共にすること得へしと思はる附來は東京よりの通信は大垣救濟事務所宛にて送られたし

之を認むるに際して尚ほ數回の鳴動あり

藤井米八郎、湯谷磯一郎

○演説會

廿二日夜中央會堂に於て幻燈及勸告會を開く、大雨中來會者少く二百名内外也、星野滿之輔、飯野吉三郎、織本義治三氏の演説あり、自由義捐金七圓六十錢四厘及金指環一箇。廿七日、明治學院神學部生の聘に應じ織本義治氏本隊の主旨天災と國家との關係を辨ず其狀況は次回に記す。

●義捐及出費録

入

十圓 明治女學校寄宿生
一圓九十五錢 同校無名氏
三十圓 橫濱無名氏
七圓六十錢四厘 中央會堂義捐募金
外に金指環代價は次回報告中に譲る
二十錢 甲府、林友尚
計 四十九圓七十五錢四厘

出

四十七圓 震地へ送附濟
震地に於ける出費細目は別に録するか[illegible]さす
二圓五十錢 中央會堂にて幻燈損料待乳へ渡す
計 四十九圓五十錢
殘金 二十五錢四厘

●義捐品物録

諸方より寄贈の品物は次回に報告す但し既に悉皆震地へ發送したり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○震災地特別通信　第三報

吾儕は一昨夜即ち廿二日深更岐阜のテントに在りて第二報を認め這回新に經歷したるうち大切と思はれたるものにつき早急の際隨見隨感の一斑を通信したり然れども是れ實に凡ての探見者が皆へる如く十の一にも及ばず其悲慘の現象は其眼親しく之を視其耳親しく之を聽くものに非んば亦其眞相を知ること能はざる也否其現場に臨むものと雖其眼爲めにうるみ其耳爲めに打たれ彼等が悲嘆の眞の分量を測り度ること能はざるへし

廿三日(月曜日)、昨夜半强震またあり眠を破りぬ後にて聽けは大垣にては戸々殆と皆な外に飛び出たしたりといふ然れども岐阜の方は少し弱震なりしなるへし朝一行は預け置きたる施與物品の二包を處理し且つ訪問をかね(東二里)

再び笠松に向ふ

車夫善く健走す行々前車を叱咤し走又走一時ならすして達す我か爲め當年の樊郎たりし也直に假病院に至り三澤君坊淵大塚姉等に面す患者數十名纍々たり試に庶務員に聽くに目下新患者尙は四十餘名ありといふ國手は刀を捨つるに暇遑なく看護婦は身体に息なしといふ有樣也堤を超えて事務所に至る出口著姉在り一行を迎ふる極めて懇懃なり再會を語ふ抑此事務所は既に第一報に略記せるか如く木曾河畔に在り遠く山野流水を咫尺の間に凝め一呼一吸天地と化を等しくするの感あり庭園は廣くして敷くに高麗芝を以てし川をつくり小橋を架し竹を植え石を立て物數奇に造りたるものにて東屋及び數室の小屋三四を點配したり一六先生一室に題して鼓笨樂逍遙といふ主人を馬好といふ余等未だ面するの時を得すと雖も蓋し奇人也といふ出口氏は笑ひつゝ云へらく患者某婦深く看護婦の恩に感したりと見え、まあ貴きあなたがた本當に

南無阿彌陀佛

私のやうな卑きものを少しもお構ひなさらないで、アーお世話して下さるとは誠に勿体ないことで屹度よいお亭主樣をお持ちなさるでしやう、アー南無阿彌陀佛ッて、ねー出口さんいやトやありませんか女は亭主を持つか一番幸福だと思つてるんでしやうと談し彼等心底の喜び溢るゝ樣掬し得て餘りありといふべし

かく笠松にては我旅の聲名は諸氏の實行によりて顯はれたり物品も彼等の乏しき度に應して施與しつゝある折柄今や缺乏を告けたりとの談なれは一行か提け來りし二包の荷物は聖書讃美歌一冊と共に全く其手に托したり一行は中食後直に

再び岐阜に歸り

將來の方鍼に關して南小柿、市來諸氏と相談したり大垣の方鍼には頗る同感なりし然れども岐阜は未だ萬事整頓せす人民も多く諸方に向て移居せし者もあれは從て救濟會の事務も捗りかねたれは一行は大垣の危急なると既に諸氏の斡旋によりて働きの端緒開け居るとなれは直に大垣の聯合軍に馳せ加はり微力を盡すことと決定したり直に

岐阜警察本部

に至り鄕人なる警部中村明氏に面會し私談と共に女子賣買上の注意を促かし更に

師範學校

に至り職員に面し代表者の名儀を以て震火災に際し職員及生徒諸氏の非常なる盡力を感謝したり

再び大垣に歸り

直にテントの本部に至る爾來一行の本陣とす

歸來聽く所によれは僅に一晝夜の間に運動大に進步したり實に驚くの外なく天に謝するに言葉なく唯滿々たる感謝の雨雙眸より迸り來るのみ仰て天を望めは明星意あるか如く炯々又燦々

孤兒的運動

に付ては郡書記水田正敏氏大に小橋勝之助氏の至誠に感激し奮起する所ありたりけん己の家を以て孤兒の集會所となし細君は自ら炊爨の勞を執らる嗚呼至誠!、嗚呼至誠!、アー我亦爾と共に死生を與にせん是夜一行は直に木馬場なる同氏を訪ふ今日岐阜より來り會せる孤兒を合せて廿五名、四才位より十二三四五才の者纍々たり暫くして孤兒眠に就かんとし便所に行かんとす既に假睡覺めざる者あり涕泣する者あり一兒余に來り訴へて曰く兄さん此兒居眠りし寢とぼけてしまつッて一所に行けッていふても泣くばッかり聽ません余は兄さんと呼はる獨子の身如何に嬉しかりし!、彼等不幸兒アー此可憐兒父母兄弟の賴るべきなし此災害に遭遇す眞に愍むへし然とも彼等は親切多愛なる兄弟の手に今や導かれ天父の前に出てつゝある也余は深く天恩を謝す此孤兒は明朝一番列車にて岡山に向ふへし

青年女子賣買防禦策

亦宮崎君の盡す所一方ならず官に說き家に諭し今や料理家に寄食するもの若干名に差し當り懇諭し京坂神地方に向て相當の口を周旋する運ひになれり是か爲めに大阪に行かれたる村田里氏は宮川經輝氏より第一の佳報を齎らし歸られたり尙ほ明日沖田君は數名を提け坂神に向はるべし

貧木貸與策

に付ても目下取調を吏員に託しつゝあり其調査終れは直接に再調して將來を懇諭して一所に集めて各其業に就かしめ夜は心靈上の教育を加へ監督の責は本部員之に任し所得を以て償却せしむるの計畫なり

本部新築

は目下大工と相談中也數日にして竣功すへし

十一月廿四日(火曜日)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

唯だ樹根ゑ息をきくのみ其内に止みたりと。磯野君の寓所も同しく全潰したり折柄氏は銀行に宿し居られしが夫人下婢は共に壓せられたるに二歳の令嬢は不思議にも覆ひかゝりたる屋根の上にほり出されて微傷もなかりしと又た本田氏にきくに氏は傳道の爲めに他處へ出張せしに此害あり其寓所にも大迫り前向ひには娼家(う)二家廿余人の壓死者あり隣に〔?〕三人の死者ありしが同夫人は赤児の身倚十餘歳の小兒を相手に家具など悉く片つけたりと

是日午前救濟會事務所に於て員小野氏及岡山孤兒院派出員小橋勝之助等と共に大垣の將來の策につき大に議する所ありしが要するは本部を設くるに在り會堂となし又救濟事務を執り社會改良と傳道とを實際に併行すへき所也

賤娼的運動

に向ても既に役所に注意せる所もありたり聞く所によれば青年女子を買ひ取るために惡計を運らしつゝあるもの多しといふ故に是等の女子の爲めに正當の職業をなさしむるの相談もありと又他地方に向て周旋の相談計畫中也爲めに大坂に向て出張せしむるの相談もありといふ又

孤兒救濟

前日既に岡山に向て第一隊十五名を送りたり目下尚ほ探索中也其數も中々多しといふ目下第二隊となして送るべきものも殆と廿名準備中也尚ほ目下

貧民學校

を設くるの必要あり此ことは中々大事なれば容易く行ふこと能はされども目下の急務なれば種々心配相談中也目下

傳道

の門戸も皆く開けたり事務員は物品の寄與に際し十數名のものを集め説きて懇に救濟の目的を説し將來の心得を諭すに大に感涙を流す者亦少からずといふ加之中以上の人民も官吏社會も大にクリスチャンの行爲に感動し大に信任の有様なれば大垣には直に傳道の必要ありと思はるゝ而して宗派心なく

一のキリスト

の下に在りて東西相結合し各派相結托して寛軍と關ヶ原を爭ふの時なるを感ずるこの一條也起きよ天下の義人各派の名士來りて此戰場に起て今や危急の機也實に危急の一機也

關西の大震災

は吾人東京派出員の大に感ずる所也彼等が働きの活潑なる關西の發開なる眞に其意氣に感すへし關東の十四は切に心を動めて集めざるに拜むごも關西人の熱心なる働きには及ばざるは切に自ら一感する所也今に一行藤井香は君日の後孤兒十名の提携の東に靠し一は已に現かに一は猶在る數を撰ぜんとす前隊の大垣本部は數日の實驗の上に頭すへし

午後一行は岐阜市に向ふ途に美江寺にて數かたすぐ戸々皆な倒れ草葺の家根に中紙に壓死一人或二人或は七人を九人に及ぶ改めたるなどゝ思ろに胸をつきし心を刺すの思ひあるに尼花かくれに見渡せは紙旗にや紙幟の數多々風に翻々としてうちなびくさま鳴呼何等の悲境ぞ是日天亦暗澹更に悲哀を加ふ假の村役場に至り尋ぬるに此聯合四ヶ村は震害の甚しき衝に當り

五百戸の内僅に八月

のみ幸ふして殘れりといふ試みに美江寺にての統計を案ずるに人口七百九十六人の内廿六人死亡三百八十名負傷救助を受くるもの全數再び救助に預かるもの七百十一人亦以て概況を疑ふに餘りありといふべし且つ揖川の堤防も痛く破損したる樣猶くに餘りあり然とも今之を略す三時半過ぎ五里を經て

岐阜に着す

直に救濟會事務所に至る宣教師チャッペル氏の宅の側にテントを張り兼會堂となす岐阜の現状は未た明細ならず南小柳氏と熟議せんとす是夜説教をなし時なく僅かに破臓を繕りて一時に一團となし以て報告と標す

十一月廿二日夜十一時岐阜テントに於て

内に集ふ明日岡山に向ふべき孤兒九名共に在り相笑ひ相語り相抱き相戯るゝ樣を見て悲しく見えさるには更に晋啟の爲めに絞りぬ明廿三日一たび笠松に至り仲けたる行李をおさめて直に大垣に歸らんとす益し該地を以て一行の本陣となさんとするに最も適當にして機敏なる運動を共にするこさを得へしと思はる爾來は東京よりの通信は大垣救濟事務所宛にて送られたし

之を認むるに際して尚ほ數回の鳴動あり

藤井米八郎、湯谷磋一郎

○演説會

廿二日夜中央會堂に於て幻燈及勸告會を開く、大雨中來會者少く二百名内外也、星野浦之輔、鏡野三郎、巖本善治三氏の演説あり、自由黨揖金七圓六十錢四厘及金指環一箇。廿七日明治學院神學部生の聘に應じ巖本善治氏本隊の主旨天災と國家との關係を辯ず其狀況は次回に記す。

●義捐及出資録

入

十圓　明治女學校寄宿生
一圓九十五錢　同校無名氏
三十圓　信濃無名氏
七圓六十錢四厘　中央會堂義捐醵金
外に金指環代價は次回報告中に譲る
二十錢　甲府、林友溫
計　四十九圓七十五錢四厘

出

四十七圓　震地へ送附濟
震地に於ける出役細目は別に録するかゆさす
二圓五十錢　中央會堂にて幻燈扱料待乳へ渡す
計　四十九圓五十錢
殘金　二十五錢四厘

●寄附品物録

諸方より寄贈の品物は次回に報告す但し既に悉皆震地へ發送したり。

○震災地特別通信　第三報

吾儕は一昨夜即ち廿二日深更岐阜のテントに在りて第二報を認め這回新に經歴したるうち大切と思はれたるものにつき早急の際隨見隨感の一斑を通信したり然れども是れ實に凡ての探見者が皆へる如く十の一にも及ばず其悲惨の現象は其眼親しく之を視其耳親しく之を聽くものに非んば到底其眞相を知ること能はざる也否其現場に臨むものと雖其眼爲めにうるみ其耳爲めに打たれ彼等か悲嘆の眞の分量を測り度ること能はざるへし

廿三日(月曜日)、昨夜半强震またあり眠を破りぬ後にて聽けは大垣にては戸々殆と皆な外に飛び出したりといふ然れとも岐阜の方は少し弱震なりしなるへし朝一行は預け置きたる施與物品の二包を處理し且つ訪問をかれ(東二里)

再び笠松に向ふ

車夫善く健走す行々前車を叱咤し走又走一時ならすして達す我か爲め當年の樊郎たりし也直に假病院に至り三澤君府瀬大塚姉等に面す患者數十名鉄々たり試に庶務員に聽くに目下新患者尚ほ四十餘名ありといふ醫手は刀を捨つるに暇遑なく看護婦は體休に耳なしといふ有樣由堤を超えて事務所に至る出口老姉在り一行を迎ふる極めて懇切なり抑此事務所は既に第一報に略記せるか如く木曾河畔に在り遠く山野流水か雙眸の間に聚め一呼一吸天地と化を等しくするの感あり庭園は廣くして敷くに高麗芝を以てし川をつくり小橋を架し竹を植え石を立て物數奇に造りたるものにて東屋及び數室の小屋三四を點綴したり一六先生一室に題して鼓芳樂道齋といふ主人を馬好といふ余等未だ面するの時を得すと雖も蓋し奇人也といふ出口氏は笑ひつゝ云へらく患者某婦深く看護婦の恩に感じたりと見え、まあ貴きあなたがたが本當に

南無阿彌陀佛

私のやうな卑きものを少しもお構まひなさらないで、アーお世話して下さるとは誠に勿躰ないことで屹度よいお亭主樣をお持ちなさるでしやう、アー南無阿彌陀佛ッて、ねー出口さんいやぢやありませんか女は亭主を持つか一番幸福だと思つてるんでしやうと言ひ彼等心底の喜び溢るゝ樣揣し得て餘りありといふべし

かく笠松にては我黨の芳名は諸氏の實行によりて顯はれたり物品も彼等の乏しき度に應して施與しつゝある折柄今や缺乏を告けたりとの談なれは一行か提け來りし二包の荷物は聖書讃美歌一冊と共に全く其手に托したり一行は中食後直に

再び岐阜に歸り

將來の方鍼に關して南小柿、市來諸氏と相談したり大垣の方鍼には頗る同感なりし然れども岐阜は未た萬事整頓せす人民も多く諸方に向て移居せし者もあれは從て救濟者の事務も捗りかねたれは一行は大垣の危急なると既に諸氏の斡旋によりて働きの端緒開け居るとなれは直に大垣の聯合軍に馳せ加はり微力を盡すとと決定したり直に

岐阜警察本部

に至り郷人なる警部中村明氏に面會し私談と共に女子實質上の注意を促かし更に

師範學校

に至り職員に面し代表者の名儀を以て震火災に際し職員及生徒諸氏の非常なる盡力を感謝したり

再び大垣に歸り

直にテントの本部に至る斯來一行の本陣とす

歸來聽く所によれは僅に一晝夜の間に運動大に進歩したり實に驚くの外なく天に謝するに言葉なく唯滿々たる感謝の雨雙眸より迸り來るのみ仰て天を望めは明星意あるか如く燗々又燦々

孤兒的運動

に付ては郡書記水田正敏氏大に小橋勝之助氏の至誠に感激し奮起する所ありたりけん已の家を以て孤兒の集合所となし細君は自ら炊爨の勞を執らる嗚呼至誠！嗚呼至誠！、アー我亦爾と共に死生を與にせん是夜一行は直に木馬場なる同氏を訪ふ今日岐阜より來り合せる孤兒を合せて廿五名、四才位より十二三四五才の者鉄々たり暫くして孤兒眠に就かんとし便所に行かんとす既に假睡覺めざる者あり涕泣する者あり一兒余に來り訴へて曰く兄さん此兒居眠りし寢とぼけてしまつッて一所に行けッていふても泣くばッかり聽ません余は兄さんと呼はる獨子の身如何に嬉しかりし！、彼等不幸兒アー此可憐兒父母兄弟の賴るべきなし此災害に遭過す眞に慇むへし然とも彼等は親切多愛なる兄弟の手に今や導かれ天父の前に出てつゝある也余は深く天恩を謝す此孤兒は明朝一番列車にて岡山に向ふへし

青年女子實質防禦策

亦宮崎君の盡す所一方ならず官に說き家に諭し今や料理家に寄食するもの若干名に差し當り懇諭し京坂神地方に向て相當の口を周旋する運ひになれり是か爲めに大阪に行かれたる村田里氏は宮川經輝氏より第一の佳報を齎らし歸られたり尚ほ明日沖田君は數名を提け坂神に向はるべし

資本貸與策

に付ても目下取調を吏員に託しつゝあり其調査終れは直接に再調して將來を懇諭して一所に集めて各其業に就かしめ夜は心靈上の教育を加へ監督の責は本部員之に任し所得を以て償却せしむるの計畫なり

本部新築

は目下大工と相談中也數日にして竣功すへし

十一月廿四日(火曜日)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

部員は手を分ちて各方面の運動に奔走す我一行中藤井君は小橋君と共に孤兒蒐集の爲めに斡旋す

今朝本部に來訪し云へらく居留人民の委託により代表者として見舞のため且つ義捐金配賦のために昨日來着せり彼地居留人民は非常なる騷きにて勞働者と雖も一圓以下のものなく多額の金員を持歸りたりと尙ほ氏は兩三日中名古屋を經て東上すべしといへり

在朝鮮村上唯吉氏

關西の大奮發靑年の運動は眞に驚くべし神戶より送り來る物品續々斷えず昨日も

一列車の荷物

を送り來れりといふアー義俠なる關東の兄弟よ姉妹よ今や大垣は大戰場也實に

大垣は大戰場也

匪徒は靑年女子を苦殺せんとし佛者は義の行を妨げんとすキリストの徒眞に決死戰ひの義兵と爲るべきの時也アー起てよ奮へよ富めるものは貨を投ぜよ力あるものは戟を提げて來り戰へよ我大和民族の大救濟は必ず此小渦より流れ出でゝ全國を漂はすべし冷々淡々背過し去るものは實に天の罪人也我國民の仇也

救貧院

の必要は前陳の如く目下焦眉の急務なれ我大垣本部は未だ着手中也既に三十餘戶のものは實際の調査終り殊に十名は直に實施するに至るべし是大は必ず此大事業を助け玉ふべしと確信しつゝある折柄村上君の朝鮮居留地より歸り來りて訪問せられたることなれば宮崎氏と共に再び同氏に面談す種々相談ありし末同氏も大に同感なるを謚せられ一度東上し其會員につき別に相談する所あれば直に報告すべしとさ

又二十個の荷物

は大坂靑年會より送り來れり貧民を惠むるゝ漬物も味噌も蒲團も多分來着したれは差し當り不都合なし

昔者主の弟子二人エマオに於て主にあひ奉りて後

我心熱せしに非すや

とは實に吾人今日の現狀也今や

大運動を始めたり

明日は我一行中藤井君孤兒十名を伴ひ一度東歸し實を報告せんとす神よ我行を祝し率へ

今や心神靜ならず前後錯雜大小紛案意走て筆從はず謂ふ大戰場裡の多感を諒察せよ

十一月廿四日大垣救濟會事務所テントに於て　一行

品名	十一月廿六日
白米（一円付）	
一等米	九升七合
二等米	九九
三等米	一〇二
四等米	一〇四
五等米	一〇八
正米（一円付）	
美濃米	一斗三升七合
鳥取米	一三〇
秋田米	一四七
庄内米	一三六
一志米	一四二
雜穀（一円付）	
木貫大麥	二斗七升五合
上州小麥	一七五
竹林麥	一七五
梅澤大豆	一九五
靑柳大豆	一九〇
吟小豆	一七二
白胡麻	一三二
黑胡麻	一七〇
鹽（一円付）	
赤穂	三〇五
大鹽	三一五
本齋	四九〇
新齋	五三五
醬油（一円付）	
最上	[illegible]
極上	[illegible]
上物	[illegible]
中物	[illegible]
並物	[illegible]
味噌（一円付）	
地製上白	六、七〇〇
同上赤	六、七〇〇
同紅赤	四、二〇〇

品名	十一月廿六日
木綿冬縞（一反）	
伊勢改良縞	七〇
同糸入縞	一、〇八
笠井糸入縞	一、〇〇
佐織茶縞	五八
同糸入縞	六二
同納戸織	五五
同紺織	六七
同靑縞	九〇
生桟茶縞	三八
同糸入縞	五〇
美濃双子	六八
瓦斯二子	一、〇〇
同羽二重縞	一、八〇
物產縞	七五
糸入米國縞	一、二〇
別製結城紬	八五
野田双子	五六
燃二子	六〇
本場靑縞	八八
同最上	一、三〇
縮緬（一疋付）	
上々入金	一二〇、〇〇
上入金	一一三、〇〇
並入金	一〇八、〇〇
濱縮緬（一疋付）	
大巾上馴	五、〇〇
小巾百廿目立	五、六〇
同並物	五、〇〇
六丈絹猩々紅	
五十目立	五、三〇
糸吉生絹（一疋付）	
六十目附	二八、〇〇
七十目附	二八、〇〇
八十目附	二九、〇〇
百目附	三〇、〇〇

品名	十一月廿六日
製茶（一貫目付）	
山城江州稀大頭	二、五〇
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七八
同中頭	一、五〇
同中茶	一、二三
狹山稀大頭	二、〇五
同稀頭	一、七五
同大頭	一、四〇
同中頭	一、三〇
同中茶	一、〇二
鰹節（十貫付）	
土佐上	二四、〇〇
薩摩大	二三、〇〇
伊豆上	二四、〇〇
城の腰上	二一、〇〇
房總上	二〇、〇〇
銚子上	一九、〇〇
炭（一円付）	
伊豆上	四、五〇
同中	五、六〇
同並	六、五〇
新宮丸備上	二、三〇
同角備上	二、八〇
種油（一樽付）	
地水	七、〇〇
胡麻	一〇、四〇
荏油	一〇、〇〇
桐油	六、〇〇
綿油	七、八八
坂水	七、九二
石油（一樽付）	
チヤスター	一、五〇
デボース	一、四九
ホーキ	一、五二
ロレヤ	一、四七

産科往診廣告

晝夜ヲ論ゼス東京市内ノ姙婦産婦ヲ往診ス
但報酬等ヲ要セズ

本郷區元富士町 **醫科大學第一醫院**

横井時雄著

基督教新論

（十一月廿五日ヨリ發賣）

目次 （定價拾五錢）

第一章 宗教とは何ぞや
第二章 他宗教實地の成績
第三章 基督教とは何ぞや
第四章 キリストの人物（一）天眞爛熳
第五章 仝 上（二）仁愛化身
第六章 仝 上（三）幸福圓滿
第七章 仝 上（四）自損謙卑
第八章 神に關するキリストの意識
第九章 キリストの十字架
第十章 キリストの超絶せる品性及奇跡
第十一章 キリストの復活
第十二章 復活に關する懷疑説（一）閉息説
第十三章 仝 上（二）幻夢説
第十四章 聖靈の恩化及基督教徒の意識
第十五章 使徒パウロの信仰
第十六章 キリストの自言
第十七章 祈禱

發兌 東京新橋出雲町一番地 **警醒社書店**

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述 つれ〲草講義 一冊 價金八錢
鈴木弘恭大人述 文法口授 一冊 同十六錢
鈴木弘恭大人述 百人一首講義 一冊 上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著 産婦小見攝生法 一冊 金十六錢

女學雜誌取次賣捌所

東京々橋區尾張町二丁目東海堂 仝神田武藏屋 仝京橋區彌左衞門町巖々堂 仝京橋小西新聞舖 仝京橋區木挽町一丁目万字堂 仝神田錦町三丁目五番地朝陽堂 仝芝櫻川町萬春堂 神戸元町四丁目福音舍 大阪東區備後町四丁目岡島支店 京都佛光寺通烏丸東へ入ル東枝律書房 熊本市南新坪井町草野書店 大阪土佐堀三丁目福音社 盛岡市中橋通東北堂 京都河原町二條下ル二丁目大黑屋 宇都宮日野町小林格 神戸下山手通三丁目望榮堂

廣告定價

一行	一回	前金拾錢（廿七字詰）
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す慈善上の事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし。

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

雜誌定價

一冊	六錢	郵税。五厘	（但府內無郵税）
十一冊	五拾八錢	郵税。五錢	
半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢（同 前）
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 **女學雜誌社**
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

裁縫教員廣告

裁縫及造花刺繡毛糸編等出來得る女教員有之候間御入用の御方は左の所に御報知の程を乞ふ

本郷區東竹町廿五番地

和洋裁縫傳習所

詩文添削批評

河村巖城先生主任謝料隨意●諸郵券代用●返稿五日間改正詳則ハ郵劵貳錢送致次第進呈スベシ

陸奥國弘前代官町

華月館

注意

本館ハ專ラ文學ノ普及ヲ圖ルノ主意ナレハ如何ナル初學ノ詩文ト雖モ勉メテ丁寧精密ニ添削批評シ及ビ男女老少ヲ問ハズ苟モ詩文ノ研究ニ從事セント欲スル者ハ皆喜ンテ館員ノ盟ニ加ハルヿヲ諾ス

改正定價　第三版　百人一首講義

上製美本　三十五錢　郵稅六錢

並製淡裝　二十八錢　同　四錢

年末の遺物に宜し　歌留多遊びに宜し

年玉に宜し　詠歌に宜し

女學雜誌社

基督の自然

定價拾五錢

該書は米國神學博士ニューマン、スマイス氏の著にして小谷野敬三村木經策兩君の合譯に懸かり耶蘇基督の神性を發露するに於て前書耶蘇の非凡にまさりて著るし將に譯成り十二月七日を以て發兌せんとす既に前書を購讀せられたるの諸兄姉妹希くは其高評を吝まざらんことを今や時已に歲暮に近かし「クリスマス、プレセント」抔にも極めて適當の品なり敢て學生諸君に紹介す。

幼年の針路

田村直臣君著

十二月十日頃發賣

發兌　東京新橋出雲町一番地　警醒社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

裁縫及造花刺繡毛糸編等出來得る女教員有之候間御入用の御方は左の所に御報知の程を乞ふ

本郷區東竹町廿五番地

和洋裁縫傳習所

詩文添削批評

河村巖城先生主任

謝料隨意●諸郵券代用●返稿五日間改正詳則ハ郵券貳錢送致次第進呈スベシ

陸奥國弘前代官町

華月館

注意

本館ハ專ラ文學ノ普及ヲ圖ルノ主意ナレハ如何ナル初學ノ詩文ト雖モ勉メテ丁寧精密ニ添削批評シ及ビ男女老少ヲ問ハズ苟モ詩文ノ研究ニ從事セント欲スル者ハ皆喜ンデ館員ノ盟ニ加ハルコヲ諾ス

第三版

百人一首講義

並製淡裝　二十八錢　同　四錢

年末の遺物に宜し

歌留多遊びに宜し

年玉に宜し

詠歌に宜し

女學雜誌社

基督の自然

定價拾五錢

該書は米國神學博士ニューマン、スマイス氏の著にして小谷野敬三村木經策兩君の合譯に懸かり耶蘇基督の神性を發露するに於て前書耶蘇の非凡にまさりて著るし將に譯成り十二月七日を以て發兌せんとす既に前書を購讀せられたるの諸兄姉妹希くは其高評を吝まざらんことを今や時已に歲暮に近かし「クリスマス、プレセント」杯にも極めて適當の品なり敢て學生諸君に紹介す。

田村直臣君著

幼年の針路

十二月十日頃發賣

發兌　東京新橋出雲町一番地

警醒社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY